

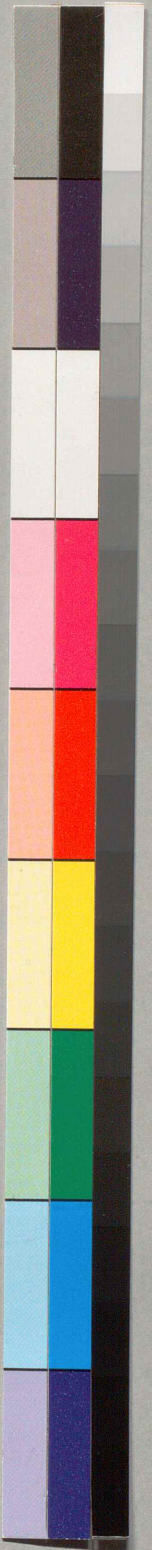
「学生便覧別冊」

平成10年度開講科目

大 学 院

〔人間文化研究科〕  
(博士前期課程)

お茶の水女子大学



平成10年度 行事予定表

月 日 (曜)	事 項
平成10年	
4月9日(木)	入学式
4月16日(木)	前学期授業開始
5月18日(月)～21日(木)	定期健康診断
7月23日(木)～31日(金)	補講日・前学期末試験
9月16日(水)～22日(火)	
8月1日(土)～9月14日(月)	夏期休業
9月23日(水)～30日(水)	秋期休業
10月1日(木)	後楽器授業開始
11月6日(金)	德音祭準備(休講)
11月7日(土)・8日(日)	德音祭(文化祭)
11月9日(月)	德音祭後片づけ(休講)
11月29日(日)	創立記念日
12月24日(木)～1月7日(木)	冬季休業
平成11年	
1月14日(木)・16日(土)	大学入試センター試験のため臨時休業
2月1日(月)～13日(土)	補講日・後学期末試験
3月23日(火)	卒業式・学位記授与式

目 次

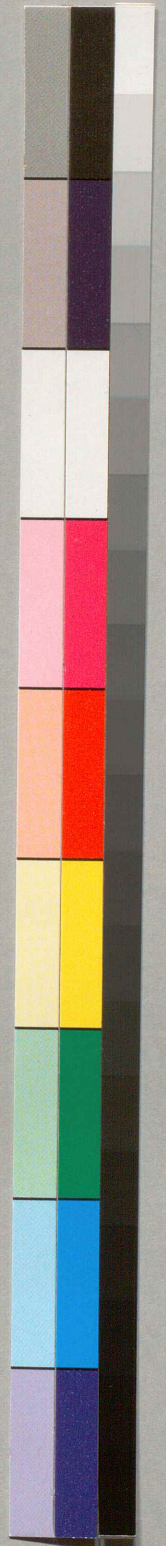
言語文化専攻	-----	1
人文学専攻	-----	9
発達社会科学専攻(発達人間科学系)	-----	17
発達社会科学専攻(生活・開発科学系)	-----	25
ライフサイエンス専攻(生活科学系)	-----	31
ライフサイエンス専攻(生命科学系)	-----	37
物質科学専攻	-----	45
数理・情報科学専攻	-----	53
担当教官名簿	-----	59

付 表 行事予定表

◎各欄の表示について

- ・履修年次  
ローマ数字(I, II)は履修年次を表します。
- ・学 期  
「前」「後」「通」はそれぞれ前期、後期または通年で開講されることを表します。  
「集中」は、集中講義として開講されます。
- ・そ の 他  
☆の科目名は読み替え科目名を表します。

言語文化専攻



言語文化専攻

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
近代日本語学特論 (98H0003) 古田 啓	I・II 通 4単位	室町時代から1946年までの日本語に関し、その音韻・文法・語彙・文体の実態及び変遷、また地方・階層による言葉遣いの違い等につき、年度ごとにテーマを定め、講ずる。
日本上代文学特論 (98H0005) 萩原千鶴 (岩崎)	I・II 通 4単位	日本上代文学作品、ことに『古事記』『風土記』などを扱い、上代文学の生成と展開、またその特質について論ずる。神話的なものと人の世の物語の相関、記載散文文学の叙述の方法などの問題について考察し、上代文学の特性について多角的に論ずる。
日本中古文学演習 (98H0008) 平野 由紀子	I・II 通 4単位	平安仮名作品を中心とした中古文学の研究方法を実践的に修得する。写本の中からひとつの作品をとりあげ、本文校訂、語句の意義、時代背景などを確定する注釈の方法獲得を基礎とする。その上で各自の関心に従いテーマを設定し、それらを研究発表する。研究史をふまえ、討議しあいレポートをまとめる。
日本中世文学演習 (98H0010) 三木 紀人	I・II 通 4単位	日本中世文学、例えば軍記・説話・随筆・評論などの中から適宜対象を選び、諸伝本を比較検討、文学的・思想的環境・源泉・成立事情などに留意しつつ読みとき、転換期の言語表現としての特性を考察する。
日本近世文学特論 (98H0011) 市古 夏生	I・II 通 4単位	近世文学の多種多様な分野から、仮名草子・浮世草子・怪異小説などの小説類、俳諧・近世和歌の詩歌類、浄瑠璃・歌舞伎の演劇類など特定の分野を取り上げて、基礎的知識や文学をめぐる社会環境を確認しながら各ジャンルの特色、作品の特質、作者の問題を論じる。
日本近代文学特論 (98H0013) 菅 聡子	I・II 通 4単位	主として明治・大正期の作品を対象に、各自の研究テーマに即しながら文学研究上の諸問題を考える。研究方法や文学理論への理解を深め、作品研究の課題として文体・構成・視点・語り等の実践的な分析・考察などの手続きの修得を目的とする。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
日本現代文学演習 (98H0016) 大塚常樹	I・II 通 4単位	日本現代文学から数作品をとりあげ、文学研究理論に基づき、様々な方法・観点から分析を試みる。 ☆『現代文学理論』(新曜社)を使用。
現代中国語圏文学演習 (98H0020) 宮尾正樹	I・II 通 4単位	フェミニズム的研究論文の購読を行う。
中国古典語学演習 (98H0022) 大西克也	I・II 前後 集中 4単位	古漢語について、甲骨金文や、中国各地出土の列国簡帛資料によりつつ論ずる。参考書として裘錫圭『文字学概要』(商務印書館、1998年)を適宜講読する。
現代中国文学演習 (98H0024) 相原茂	I・II 通 4単位	中国語文法を認知言語学的観点から眺める。最近の雑誌から関連文法をとりあげ講読してゆく。後期は参加者に自主的な発表を求める。
近代仏文学特論 (98H0025) 石川宏	I・II 通 4単位	18世紀あるいは19世紀フランス文学の中から個別的あるいは複合的の主題を選んで、テキストの言語的読解をベースにして作家・作品の問題性や影響関係などを研究したい。この時代のフランス文学史は、アンシャン・レジームの末期から七月王政にかけてはロマン主義が、第二帝政から第三共和政治にかけてはリアリズムと自然主義が主流をなしていた。こうした歴史的な文脈並びに文化的背景を視野に入れつつ現代への射程なども考察する。 本年度はテキストとしてStendhal, <i>La Chartreuse de parme</i> , 《Le Livre de Poche》, (Librairie Générale Française, 1983)を用いる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
現代仏文学特論 (98H0026) 中村弓子	I・II 通 4単位	主として20世紀の作家について、各個人の人と作品の分析をすることとまらず、同時代の社会と思想との関わりを特に考慮しつつ考察する。さらに、文学研究について先鋭的方法論を提示した思想家を個別に取り上げ、その方法論を研究すると同時に、学生に対して、その方法の適用の可能性をこころみる機会を与え、具体的適用のもたらず諸問題を共に検討する。 今年度はテキストとして、Georges Poulet: 《Etudes sur le temps humain》を用いる。(コピーを配布)
近代仏文学特別演習 (98H0027) 村田真弓	I・II 通 4単位	17世紀を中心とする近代フランス文学の作品群からいくつかを選び、順次精読する。精読を通じ、当時の文学状況を、思想的社会的背景との関連で考察する。 今回は、Fenelon の <i>Les Aventures de Télémaque</i> をとりあげ、当時の宗教思潮との関連を中心に検討する。
仏語言語表現論 (98H0030) 中村俊直	I・II 前 2単位	フランス語に基礎を置く言語表現の特性を論ずる。フランスにおける文学や演劇、映像表現の理論と実践について、あるいは日常的言語と文学的言語といった問題について考察する。今年度は特に文学的言説としての対話形式について理論的考察を行う。テキストはコピーを配布。
独文学特論 (98H0031) 石丸昭二	I・II 通 4単位	前年度に引き続いて下記の作品を取り上げます。新たに参加される方には前年度分をフォローしますので、安心して参加して下さい。 テキスト: Robert Musil: <i>Die Verwirrungen des Zöglings Törless</i> 同: Young Törless (英訳) (いずれもコピーを用意)
近代独文学演習 (98H0032) 菅野健	I・II 通 4単位	20世紀最大の作家の一人トーマス・マン (1875-1955) の短編作品を丁寧に読みながら、20世紀の文学・芸術の問題を考えていきます。教材はコピーを配布する予定です。文法的知識も常に再確認して行きますので、一年次で使用した文法書は常に手元に置いておいてください。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
英語コミュニケーション特論 (98H0033) 西尾道子	I・II 前 2単位	日本人が英語を使用して効果的かつ適切にコミュニケーションを成立させるための要因について考察するために、談話の分析についての考え方、手法について学ぶ。各種関連した論文を読む。
英語学特論(語用論) (98H0035) 牛江ゆき子	I・II 通 4単位	言語の研究にあたって、言語の使用者、使用者の意図、言語の使用される場面・状況といった側面を考慮し、研究対象とするのが語用論である。語用論の理論の一つで特に発話の理解に焦点をあてる関連性理論の論文を主に読み、言語および言語使用に対する考察を行う。
英語学特論(統語論・意味論) (98H0037) 宮川幸久	I・II 通 4単位	最近の言語研究で行われている統語論、意味論に関する論文をいくつか取り上げて、それぞれ研究方法と研究成果、今後の方向について論じる。
英語圏言語文化特論 (98H0038) 竹村和子	I・II 前 2単位	テーマはセクシュアリティ研究。理論を講義したのち、主要論文及び作品を読む。テキストは授業中に配布する。扱う作品はおもにアメリカ文学とアメリカの映像表象。
英文学特論(作品研究) (98H0040) 松崎毅	I・II 通 4単位	Jonathan Swift の <i>Gulliver's Travels</i> を読み、その18世紀の科学思想との関連を考察する。 テキスト: Norton Critical Editions を用いる。
英文学特論(作家・批評研究) (98H0042) 内田正子	I・II 通 4単位	英文学の作家の自己表現の総体を、イギリスおよび英語圏の文化的コンテキストの中に位置付け、総合的に考察する。特に作家の社会との関わりが、認識の形態や表現方法にいかなる関係をもつかを観察するが、職業作家やいわゆる imaginative literature には限定せず、全体として「英文学」の対象領域の拡大、新分野の開拓をめざす。さらに広義の文学が、メディアを通じていかに文化的伝統の創出に寄与するかを解明する。

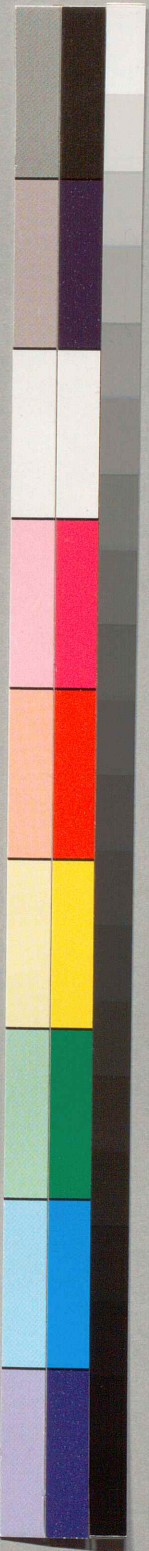
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
米文学特論(作家・批評研究) (98H0044) 海老根静江	I・II 通 4単位	言語表現としての個々の作品の分析を越えて、複数の作品を通して作家を多角的にとらえ、又、これまでの代表的な批評を論じることにより、現時点での文学批評の意味と文学研究法の可能性を探る。 今回はErnest Hemingwayの死後出版の作品とジェンダー研究に重点を置く。
日本語学演習 (98H0046) 鈴木泰	I・II 通 4単位	現代日本語の種々相における構造の理解と分析のため各メディアの事例の調査、文芸作品など諸文献の講読、具体的な事例の収集・分析を行い、日本語の運用面の実際を検討する。
日本語文化学特論 (98H0048) 古瀬奈津子	I・II 通 4単位	日本語を生み出した基盤としての日本文化について論ずる。外来文化をいかに吸収して日本文化が成立しているかという課程を、社会や歴史との関係を考慮に入れた、儀式・年中行事などを材料に考察する。
日本語教育学特論 (98H0050) 岡崎眸	I 通 4単位	日本語教育の理論を言語学・社会学・心理学等との関連において分析する。また、言語教育、特に国語教育との関連を口述し、さらに日本語教育と社会の関わりにも論述する。
日本語指導法演習 (98H0051) 長友和彦	II 前・後 集中 4単位	日本語指導法の理論を検討し、理論をシラバスデザインに应用する能力及び日本語能力の評価測定の技能を養うことを目的とし、各種日本語教育プログラムの調査研究、試験問題の作成・実施を通して、条件に応じた教育プログラムの作成を試みる。
言語分析学特論 (98H0052) 長友和彦	I 前 集中 2単位	文献講読を通して、これまでの言語分析学の対象・方法・内容を概観し、日本語教育に应用できる言語分析学のあり方を具体的に検討する。特に、日本語学習者の言語を対象とした研究を史的に概観し、言語習得研究とその応用に結びつく言語分析学の可能性を探る。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
言語分析学演習 (98H0053) 長友和彦	I 後 集中 2単位	実際に使用されている言語の分析法を学習する。特に、日本語学習者の言語を分析対象とし、その日本語の習得課程を音声・文法・談話・社会言語能力という観点から明らかにする方法を学ぶ。
日本語教育方法論 (98H0054) 岡崎 眸	II 通 4単位	日本語教育の方法の具体的な考察を目的とし、受講生の関心の特に集中する領域を選んで、討論形式の授業を行う。
日本語音声表現特論 (98H0057) 鮎澤孝子	I・II 前・後 集中 4単位	音声の発生受容という立場から、生理、音響、聴覚の構造や機能の基盤を明らかにする。つまり言葉で使われる音がどのように調音され、伝搬し、耳に聞こえるかの基本を学ぶ。また関連する重要な研究論文を検討し、音声学の研究が目指す方向についての知識を得る。
日本語音声教育方法論 (98H0059) 村松賢一	I 通 4単位	音声学、音韻論を基盤とする音声面での教育法を探求し、さらにコミュニケーションに関わる言語行動について比較文化的観点からも理解を深める。
比較言語教育学特論 (98H0060) 本郷 遼子	I 通 4単位	従来の日本語教授法を考察し、教材研究・作成、実習を通して効果的な教授法を探る。また、「日本語」及び「日本事情」の授業に関して内容、教材、教授法を検討する。
日本語教育実習 (98H0062) 本郷 遼子	I 前 2単位	日本語学習者を対象とした教壇実習を含む教育実践を通して、学習者の募集から、ニーズ分析、シラバスデザイン、カリキュラム作成、教材作成、教案作成、教授法、評価法、報告書作成までを学ぶとともに、研究課題を設定し、日本語教師養成の中での教育実習の在り方について検討する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
日本文化特論 (98H0063) 大口勇次郎	I・II 前 2単位	日本社会の歴史的発展の様相を念頭に置きつつ、世界（アジア、ヨーロッパ等）の文化と比較した日本文化の特異性と共通性について考察する。特に、対外関係の途絶した江戸時代鎖国下における文化や情報の伝播、交流の意味を考えることを通じて、現代日本の文化的・社会的基盤を形成しているものが何であるのかについて理解を深める。
日本文化演習 (98H0064) 大口勇次郎	I・II 後 2単位	諸外国の文化と接触することによって、日本の文化の特徴もまた明らかになるという前提にたつて、前近代社会とくに鎖国を守った徳川時代における文化・情報の伝播と交流の実態を考察する。演習では、国際的な文化交流の実態を示す文献・資料を輪読することを通じて、他国との共通性・異質性を理解し、これをもとに現代日本文化の特質についても検討する。
対照言語学特論 (98H0065) 西原 鈴子	I・II 前 集中 4単位	対照言語学の基礎的理論と研究方法を学ぶ。特に英語との比較対照研究を行う。

著者名	書名	大甲書局 加字 昭和四年	目次 頁数
野村胡堂	野村胡堂の著作研究	野村胡堂の著作研究	野村胡堂の著作研究
...	...	...	...

# 人文学専攻





人文学専攻

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
哲学特論 (9810001) 土屋賢二	I・II 前 2単位	哲学的問題を引き起こしてきた基本概念について、日常的用法を中心に分析し、それに関連する哲学的問題を解決することを目指す。例えば、存在、自由、形式、質料、知覚、時間、真理、美、意味など、哲学史上多様に議論されてきた概念について、具体的場面における用法の分析を通して問題の本質を明確にし、問題解決の方法を探る。
哲学演習 (9810002) 土屋賢二	I・II 通 4単位	哲学の基本的な問題を提示し、議論されてきた概念について、ディスカッションと関連テキストの講読を通して、問題点を確認する。また、現代の哲学が直面している様々な問題について、哲学的な基本概念の日常的用法の分析を基に議論し、その本質を明らかにする。
人文学基礎論 (9810003) 土屋賢二	I・II 前 2単位	伝統的な人文学の基本理念を現代に即応したものにするために、人文学の基礎をなす真・善・美の概念および人間の概念について原理的・哲学的な検討を加える。これらの概念は長い伝統の中で扱われて来たが、その扱い方の基本的性格と限界を明らかにし、どのような形で新しく扱うことが可能であるかを探る。同時に、他の諸学科との違いを明らかにすることによって、人文学の独自性を確立することを目指す。
人文学基礎論演習 (9810004) 土屋賢二	I・II 後 2単位	人文学の基本性格を解明するために、人文学がどのようにあるべきか、どのような研究が可能かを、人文学の基本テーマである人間、善、美、真などについて、ディスカッション及び文献講読を通して検討する。検討は哲学的な観点から行い、原理的な洞察を得ることを目標にするが、具体的な事例から遊離したものにならないようにこころがけ、それぞれの専門的分野の研究に資するような成果を挙げることを目指す。
形而上学演習 (9810006) 羽入佐和子	I・II 通 4単位	人間の在り方に関わる哲学の問題が哲学的にどのような議論されてきたかについて、関連テキストの講読を通して分析し、さらに、現代の社会的問題、例えば生命、教育などの問題について議論し、問題の本質を探る。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
科学哲学演習 (9810008) 三浦謙	I・II 通 4単位	理論の合理性・確実性について、従来の哲学で論じられてきたテーマを分析し、現代科学の理解と批判の視点を探求する。特に、論理学・認識論・科学哲学において理論がどのように構築され、いかなる意味で理論の合理性や確実性が主張されるかについて、自然科学の方法論も含めて分析する。
倫理思想史特論 (9810009) 高島元洋	I・II 通年 4単位	荻生徂徠の『論語註』をゼミ形式で読む。本書は、徂徠の『論語』の注釈書であるが、きわめてユニークなもので、『論語』の読み方にまだまだ様々な可能性のあることがわかる。レポーターの報告を受けて、議論する。
倫理思想史特別演習 (9810010) 高島元洋	I・II 通年 4単位	近世日本において独創的な儒教の体系を作り上げた、荻生徂徠の思想を、『徂徠先生答問書』を通して理解する。テキストを正確に読み、何が論じられているかを、丁寧に考える練習をする。毎回レポーターに発表してもらい、それを元に議論をしたい。
倫理学特別演習 (9810012) 佐藤光子	I・II 通年 4単位	前年度に引き続いて道元著『正法眼蔵』の講読を行う。世界観・時間観・存在論などを検討しつつ、その思想構造を解明する。また、最新の研究動向等についても適宜紹介する。 教科書『正法眼蔵』岩波文庫
社会文化特別演習 (9810013) 佐藤光子 高島元洋 羽入佐和子 三浦謙 土屋賢二	I・II 通 4単位	現代社会は、過去の様々な人間の活動のうえに築かれている。一見新しく見えるシステムや機構なども、伝統的な論理や関係のなかで機能していることが多い。いくつかの地域や時代における政治、経済、文化の重要なトピックを取り上げて、それらが現代の社会の在り方や人々の考え方・感じ方に及ぼしている影響を検討する。特に法と社会との関係、個人と集団の関係、女性の位置、身分や宗教の問題などに留意したい。
アジア政治文化演習 (9810015) 窪添慶文	I・II 通 4単位	アジアの政治文化に関わる出土あるいは文献資料の輪読と、演習参加者による研究発表会とそれに対する相互発表を交互に行う。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
アジア社会文化特論演習 (9810017) 三浦徹	I・II 通 4単位	①西アジア史料の輪読、②英独仏語の研究文献の講読によって研究法をみがき、まとめとして史料にもとづく研究発表を行う。
西洋史学方法論演習 (9810019) 山本秀行	I・II 通 4単位	英・独・仏等の社会史研究文献や史料のなかから、方法的に興味深いものを選んで講読する。歴史学が対照とするテーマが、著しく拡大、多様化している現状に鑑み、社会学や、人類学、人口学、政治学、経済学などの隣接諸科学の動向や方法論にも目を配りながら、西洋史研究の方法と問題について考える。また、随時、各自研究テーマに即した研究発表を行い、これを方法論の面から討議、検討していく。
日本社会史特論 (9810020) 大口勇次郎	I・II 前期 2単位	近世社会における村落と家族に関する研究動向を紹介して問題点を考察する。
日本社会史演習 (9810021) 大口勇次郎	I・II 通 2単位	近世社会、とくに幕藩体制論、社会史(農村史、都市史)を主題とした論文を読み、最近の研究動向(ジェンダー論、社会権力論など)を批判的に検討する。
日本政治経済史演習 (9810025) 小風秀雅	I・II 通 4単位	近代東アジア世界と形式とそのなかにおける日本の役割について、政治的、経済的側面から考え、アジア世界の統一像を模索していきたい。
日本文化史特論 (9810026) 古瀬奈津子	I・II 前 2単位	文化史とは、研究対象をいわゆる文学、芸術、風俗狭義の文化に限定せず、日本社会を形成している政治や経済のシステムなどに表れている日本的な特徴も広義の文化と規定して、その成立・展開過程を研究するものである。とくに、外来の先進文化をどのように摂取し、日本独特の文化を築いたのか、それが日本社会の変化の過程でどのように変容し、継承されていくのかを、多面的に追求する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
日本文化史演習 (9810027) 古瀬 奈津子	I・II 通 4単位	『令集解』学令を講読し、古代の政治と文化についての基礎知識を身につける。『小右記』(寛仁元年10月から)を読んで、平安時代について理解を深める。以上を隔週で行う。片方だけの履修も可
西洋政治文化演習 (9810029) 新井 由紀夫	I・II 通 4単位	中世後期イングランドの政治文化について、ジェントリの書簡を手掛かりに考えてみたい。17世紀前半に書写されたテキストを、マイクロ・フィルムを利用して読む予定。(原文は、中世英語)
西洋美術史特論 (9810030) 天野 知香	I・II 通 4単位	西洋近代芸術の諸問題を、様々な視点から考察する。社会における芸術の位相の変化、諸制度や観念の変質を具体的な作品や出来事を通して考察する。
西洋美術史演習 (9810031) 天野 知香	I・II 通 4単位	西洋美術史研究の基本である欧文文献の原書講読を通して、研究方法や視点を学ぶ。あわせて各自の研究状況や関心と連携した研究発表。文献紹介を行い、テーマに基づく討論によって意見を交換し、各自の研究に対する問題意識を啓発する。
東洋美術史特論 (9810032) 秋山 光文	I・II 通 4単位	最近の南アジア研究の成果に基づいて、古代インドにおける「様式」成立のプロセスを、特に古代記における仏教美術および中世のヒンドゥー美術を中止に、地域性と歴史的背景から検証していく。現地で撮影したカラー・スライドや、必要に応じて他の視覚メディアを使用しながら理解しやすく講義を進めたい。
東洋美術史演習 (9810033) 秋山 光文	I・II 通 4単位	Vidya Dehejia, <i>Discourse in Early Buddhist Art</i> , - Visual Narrative of India -, 1997, Munshiram Manoharlal, New Delhi. を底本にしなが、インド古代仏教美術における説話図の特性について考察したい。 テキストはコピーで配布する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
日本服飾文化論演習 (9810036) 小池 三枝	I・II 前 2単位	古代から近代までの日本の服飾事象について、史的な観点と、文化論的な観点とを重ね合わせながら検討し、日本人の生活感情や美意識を明らかにする。主として近世から近代にかけての文学・美術・演劇の中の服飾表現をとりあげ、その意味について議論する。
西洋服飾文化論演習 (9810038) 徳井 淑子	I・II 後 2単位	服飾の諸事象を通して時代の感性を明らかにするには、どのような資料をどのように分析すべきか、中世フランス服飾について資料と論文の講読を通して考える。すなわち財産目録・会計記録などの文書や宮廷風騎士道物語などの文学の記述、写本挿絵や教会装飾における表現、あるいは染織遺品など資料の分析方法を検討し、これらの分析が時代意識の解明をどのように可能にするか、今後の研究課題を考える。
風俗文化論演習 (9810040) 吉村 佳子	I・II 後 2単位	美術作品や文学作品などに表現されている日本人の生活・儀礼・行事などを取り上げて調査・分析・検討を行う。また、併せて服飾に関する遺品についても調査・検討を行うことにより、生活文化の視点から日本の服飾文化をとらえなおし、日本人の生活感情や生活感が時代時代でどのように変遷してきたのかを考察する。
流行情報論特論演習 (9810042) 板倉 壽郎	I・II 前 2単位	流行における視覚情報伝達の構造の解明のため、Gyorgy Kepesの全著作を講読し、その視覚言語理論を参考に、流行の視覚情報を言語機能により記号化する。次に記号化したものを時間軸と空間(地域)軸上にプロットし流行の展開傾向を考察する。またこの方法によって仮想上の諸データをコンピューターに入れ流行展開のシミュレーションをおこない、いかなる条件下で流行が如何なる展開をするかを予測する。
芸術文化特論 (9810043) 西村 清和	I・II 通 4単位	服飾文化を他の文化領域、特に芸術的文化の中に位置づけ、服飾の諸事象を広い視野の中で考察できる力を養う講義をする。すなわち詩歌や小説、絵画・彫刻などの造形芸術、舞台芸術、あるいは写真芸術など、諸芸術と服飾が表現性の上でどのように相互関係をもち、また独自性をもつかを考察する。

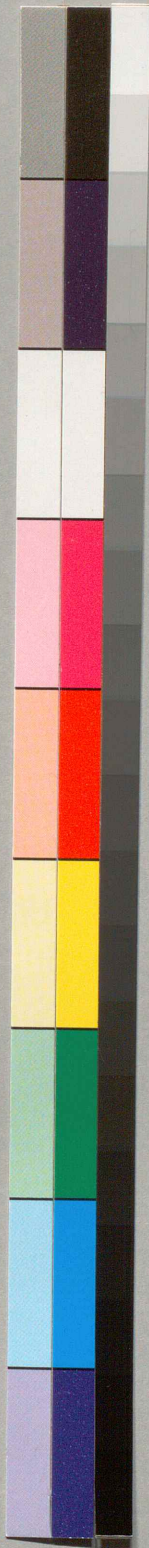
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
服飾文化特論演習 (9810044) 板倉壽郎 小池三枝 徳井淑子 吉村佳子	I・II 後 2単位	服飾は人間の生活に常に密接に結びついており、従って生活観や生活意識の調査には服飾意識の分析を欠かすことはできない。服飾文化の諸事象を通して、いかに生活文化の諸相を解明できるか、その考察の方法を日本と西洋において歴史的に、また現代生活について情報化の側面ですれぞれ具体事例を検討する。(各教官が個別に担当する。)
上演舞踊学特論 (9810045) 石黒節子	I・II 後 2単位	舞台の表象をコミュニケーションの視点から捉え、舞踊創作のプロセスにおける振付者、踊り手、観客の関係から考察し、劇場舞踊の発展について概説するとともに、現代における上演のあり方について述べる。
上演舞踊学実験実習 (9810046) 石黒節子	I・II 前・後 2単位	舞踊のテキストとしての動きの特徴を、映像資料や文献の講読を通して把握し、それを記述したり、振り付けの意図や背景とのかわりを検討する。
舞踊芸術学特論 (9810047) 片岡康子	I・II 後 2単位	20世紀舞踊芸術における象徴的な舞踊家・作品を取り上げ、作家の生きた時代や文化、作品創造の方法論及び批判・批評について考察しながら、作品を中心とした創作から解釈にいたる一連の芸術活動についての理解を深める。それらの個々の事例を通して舞踊芸術学研究の視点と方法について検討する。
民族舞踊学特論 (9810048) 本田郁子	I・II 後 2単位	日本及び世界の民族舞踊の中からいくつかの事例を取り上げ、舞踊の表現技法とその伝承法、音楽や演劇・造形表現との関連性、舞踊の成立に深くかわる民族や地域に固有の身体技法・美意識・発想法・社会システムなどについて、舞踊の実演や映像・文献資料などを通して、それぞれの舞踊文化・舞踊現象の特徴を抽出する。それらの事例を比較検討しながら、民族舞踊研究の意識・視点・方法とを論じる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
舞踊方法論実験実習 (9810049) 片岡康子 本田郁子	I・II 前 2単位	芸術舞踊および民族舞踊の実践や研究に必要な情報収集法、客観的記録法およびその分析法の検討を行う。机上での議論にとどまらず、舞踊が実演される現場でのフィールドワークや分析実験等をおこないながら、それぞれの手法の利点や限界をさぐり活用・応用の可能性について具体的に討議する。
現代スポーツ論特論 (9810050) 稲垣正浩	I・II 前 2単位	スポーツ哲学、スポーツ社会学などのスポーツ文化学の分野からアップデートなテーマを取り上げ文献の輪読をする。併せてテーマに即した研究発表を行い、研究方法や論述の仕方について討議する。
現代スポーツ論演習 (9810051) 稲垣正浩	I・II 後 2単位	国内外の現代スポーツに関連した文献の発表と討論に基づいて、各自の関心と問題領域に適したテーマを設定した後実際の調査を行う。調査項目づくり、調査対象の依頼等々の具体的作業のなかから仮設の設定、調査、分析、考察といった一連の調査研究の方法を学ぶ。
表現行動科学実験演習 (9810054) 田畑泉	I・II 前 2単位	スポーツ・舞踊を含む人間行動を健康・体力・運動などの身体科学的見地から検証するため、その記録・分析に必要な方法を修得・開発する。
ピアノ演奏学特論 (9810055) 遠藤秀一郎	I・II 通 4単位	西洋音楽の代表的楽器であるピアノについて、その多様な演奏表現を比較研究する。ゼミナール方式で行われ、その都度、時代的に異なった様式の作品を取り上げながら、奏法、音響、楽譜の解釈、楽曲構造の分析、音楽史的位置などを、実際のピアノ演奏によって検討する。また、独奏作品のみならず他の楽器とのアンサンブルもとりあげてピアノ演奏のもつ様々な側面を実践的に考察し、ピアノによる表現の可能性を追求する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
声乐演奏学特論 (9810057) 林 廣 子	I・II 通 4単位	イタリアのベルカントによるオペラアリアを中心とした声楽曲について、その演奏表現を発声法、舞台演技、作品背景、楽曲構造等から研究・実習する。また、ドイツ及びフランスなどで形成された独自の声楽曲などについても比較し、音楽様式と演奏との関連性を検討する。さらに、声楽における音楽表現的側面とともに、身体的側面をも考察することによって、西洋音楽における代表的な声楽演奏表現を総合的かつ実践的に研究する。
民族音楽学演習 (9810060) 徳丸吉彦	I・II 通 4単位	音楽を個別的な作品の並列としてではなく、相互に関連するものとして、それらが組み入れられている大きな場の問題として捉える方法を考察する。中心的な研究方法は、最新の民族音楽、音楽記号学、音楽美学によることになる。
音楽学特論 (9810061) 永原惠三	I・II 通 4単位	音楽の生ずる「場」について、パフォーマンス論の観点から音楽美学ならびに音楽社会学等の文献を講読し、西洋音楽、民族音楽等の枠組をこえて、人間の音楽行動を考える。

## 発達社会科学専攻

(発達人間科学系)



発達社会科学専攻（発達人間科学系）

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
教育人間学演習 (98J0002) 上野浩道	I・II 通 4単位	人生周期における自己実現のプロセスを、人間の成長、 発達の過程と教育との関わりを通して考察する。とくに、 思考と感情との関係、および、知性や人格の形成を、シ ンボル機能の役割という点から人間学的に考え、人間形 成に果たすイメージの論理を内外の諸文献を通 して考察する。
比較教育文化史演習 (98J0004) 駒込武	I・II 通 4単位	中華帝国の文化システムから西洋のそれへと準拠する 枠組みが大きく変容した明治維新时期に焦点をあて、異文 化接触と文化変容の問題、および教育のシステムと内容 の変化を分析し、改めて日本人にとっての西洋経験の意 味を、資料、文献の講読を通して考察する。
教育社会学特論 (98J0005) 耳塚寛明	I・II 通 4単位	教育社会学、とりわけ学校教育を対象とした社会学的 研究の意義、成立と展開、課題について、方法論および 理論を軸にすえながら論じる。とくに社会化、選抜、 配分、正当化、再生産といった学校教育の諸機能が遂行 され、階級・人種民族・ジェンダー等の社会的不平等等 が維持される過程を、いわゆる規範的アプローチと解釈 的アプローチの双方を視野に入れて論じる。
教育行財政学特論 (98J0007) 米田俊彦	I・II 前 2単位	教育行財政をめぐる理論、制度、組織、慣行等を体系 的に理解するための方法と理論を論じる。とくに日本の 教育行財政の構造、問題を浮かび上がらせるために比較 教育制度論的視座をとる。データ収集の方法、理論構築 法等、研究方法論にもウェイトをおいて論じる。
教育行財政学演習 (98J0008) 米田俊彦	I・II 後 2単位	教育行財政をめぐる理論、制度、組織、慣行の理論的、 実証的検討を行う。具体的には、教育思潮、教育諸法規 (財政法規を含む)。教育判例、教育制度改革案（政府 答申、民間の提言を含む）等を資料として、教育行財政 の構造を分析し、政策科学的検討を加える。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
教育方法学演習 (98J0010) 宮原修	I・II 通 4単位	学校教育を中心に、人間が人間を教えるとはどういうことか、そこにはどのような教育方法=技術が求められるのかを実際に学校現場を訪問して学校・授業観察などを行なうことにより、また子供の発達や教師の技術などについての文献講読などを通じて考察することで授業(教授・学習過程)を実際、多面的に研究し、学校教育のあり方について考察する。
生涯学習論特論 (98J0011) 小川剛	I・II 通 4単位	人間は文化を使うことで、人間としての生活ができる。また文化は遺伝しない。したがって人間である限り、文化を摂取し続けることが必要となる。本講義は、以上のような基本的な認識に基づいて行われる。具体的には、家庭・学校・社会における学習活動を総合的にとらえ、その理論と実践について、概括的な理論について認識を深めるよう努力したい。
博物館学特論 (98J0013) 鷹野光行	I・II 通 4単位	考古学と博物館の接点である遺跡博物館について扱う。具体的には考古学の資料が博物館でどのように展示され活用されているか、また遺跡の活用場として博物館をとらえ、その実態調査を通じて遺跡博物館のあり方を考え、地域の中における遺跡の活用の望ましい姿を考えていく場とする。
認知システム論 (98J0015) 石口彰	I・II 前 2単位	人間の感覚・知覚・記憶・学習・推論・問題解決など様々な認知能力を、情報処理システム論的観点、すなわち、入力情報の表現、情報変換の方法、出力系の特性という点から検討する。そのために、モデリングの方法など、数理解析的な方法論を導入し、自然科学の一領域として心理学を扱う。
認知システム論演習 (98J0016) 石口彰	I・II 後 2単位	人間の感覚・知覚・記憶・学習・コミュニケーション・推論・問題解決など様々な認知能力を、情報処理システム論的観点、すなわち、入力情報の表現、情報変換の方法、出力系の特性という点から検討する。この授業ではコンピュータ・シミュレーションの実習を通して、モデリングの方法や、数理解析的な方法論を応用し、自然科学の一領域として心理学を扱う。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
発達情報管理論演習 (98J0018) 石口彰	I・II 通 4単位	コンピュータネットワークを軸として研究と実践のための新たな環境形成を考察し、コンピュータによる学習を通して発達情報の管理・運用を学ぶ。人間発達科学の領域ではデータの蓄積が年々膨大な量となる一方で、データベース化という観点が欠如しているため、その効率的な運用が遅れている。本論では、データベース構築、研究環境制御、マルチメディア利用、リアルタイムでの情報通信、統計的データ分析など理論として習得した知識を実践的に活用できるよう、コンピュータの初歩から実用に至るまで、概説と演習とを行う。
心理社会行動論演習 (98J0020) 坂元章	I・II 通 4単位	心理と社会の関わりを扱う学問領域で優れた研究を行うための知識と技能を、文献の輪読や受講生自身の実際の研究を通して習得する。受講生は、授業の中で、文献の内容や研究の進行状況を報告し、教官や他の受講生からアドバイスを受けて、それを題材にして討論する。
人格形成論演習 (98J0022) 内藤俊史	I・II 通 4単位	人格形成に関わる教育上の諸問題に対する心理学的研究の貢献のあり方をいくつかのテーマについて検討する。道徳性を主たるテーマとし、広く、学校、家庭、地域社会、マスコミ等の影響のあり方を関連文献を講読し検討する。その上で、学校における道徳教育のあり方について、現在の発達理論や学習理論のもつ含意を検討する。また、人格形成に関わる現代的なテーマのいくつかを取り上げ、関連資料をもとに講義を行う。
心理発達論演習 (98J0024) 内田伸子	I・II 前 4単位	言語と認知の諸問題をめぐる文献や生得論・学習論各々の立場からの認知発達・言語発達に関わる文献(単行本や雑誌論文)を講読し、討論することを通して、認知発達研究や言語発達研究の最新の研究動向を理解する。特に、これらの文献で使われている研究方法論について検討することによって、各自の研究視点を見極め、研究方法論を確立していくことを目指す。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
認知発達学特論 (98J0025) 無藤 隆	I 通 4単位	乳幼児期から成人期に至る人の認識の発達を検討する。さらに、認識の発達が対人関係や情動面の発達とどう絡み合っているかを考える。また、教育に対する応用の可能性を検討するために、乳幼児の保育や学校教育と発達との関係を分析し、特に幼稚園や学校のあり方を探る。その検討のために、教育現場や家庭での観察研究を中心として方法論的な研究も行う。
認知発達学特論演習 (98J0026) 無藤 隆	II 通 4単位	乳幼児期から成人期に至る人の認識の発達を検討する。さらに、認識の発達が対人関係や情動面の発達とどう絡み合っているかを考える。発達、対人関係、情動の各々の基礎理論と研究方法について学ぶとともに、幼稚園、保育所、学校、家庭などの現場での研究の進め方について検討し、教育の改善に資するような発達の研究方法を探る。
人間関係学特論 (98J0027) 黒田 淑子	I 通 4単位	日常生活の諸領域における人間関係の諸課題について実験、観察、心理劇などの方法を駆使し、多角的、動的に探求する。まず、方法の習得を課題とし、次に現実場面における具体的実践での応用について学際的に検討する。すなわち日常生活のさまざまな局面における人間関係のあり方と、その改善について心理学、保育学等の知見を踏まえつつ、詳しく検討する。
人間関係学特論演習 (98J0028) 黒田 淑子	II 通 4単位	日常生活の諸領域における人間関係の諸課題について探求するために用いられる実験、観察、心理劇などの方法についての基礎知識並びに活用のための技術を習得することを第一の課題とし、次に人間科学の諸分野で用いられている実験や観察、臨床場面で用いられる心理劇についての認識を深め、それらの方法を通じて人間関係を多角的、動的に把握する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
カウンセリング特論 (98J0029) 楡木 満生	I 通 4単位	カウンセリングの原理、方法について深く学ぶとともに、医療、教育、産業などの諸分野への応用について考える。カウンセリングの理論や技術という基礎に関して十分習得するとともに、医療、教育、産業などの現場においてどのような臨床が求められているか、その要求にどのように答えられるかについて検討し、カウンセリングを中心とする心理臨床の諸課題を考える。
カウンセリング特論演習 (98J0030) 楡木 満生	II 通 4単位	カウンセリングの原理、方法について深く学ぶために、ロールプレイ、ケース検討など、実際の活動を通じた学習を行う。併せて医療、教育、産業などの諸分野でのカウンセリングの実際についても学習し、カウンセリングに関するより広くかつ深い理解を習得し、それを臨床活動に生かす能力を身につけることを目指す。
保育臨床学特論 (98J0031) 田代 和美	I 通 4単位	保育を臨床的な視点からとらえ直し、環境や人間関係が子供の発達にどのような影響を及ぼすか、さらに環境や人間関係をどのように改善していくかについて検討を加える。すなわち集団の中での子供の発達について検討し、保育において子どもをどのように理解し、どのように援助していくことができるかを考える。
保育臨床学特論演習 (98J0032) 田代 和美	II 通 4単位	保育を臨床的な視点からとらえ直し、環境や人間関係が子どもの発達にどのような影響を及ぼすかについて検討し、環境や人間関係を改善するための方法を探る。実際の保育場面における子どもや保育者の姿を通して、発達や保育のあり方について実践的、臨床的な考察を加え、こどもの理解、援助のための方策について検討する。
生涯臨床学特論 (98J0033) 伊藤 美奈子	II 通 4単位	発達臨床に関して研究指導を行う。前期は、関連分野の文献紹介や、問題意識を明確化するための討論を行い、後期には各自が選んだテーマに沿って、実証研究の立案から論文作成までを実習する。それぞれの問題意識を深めるとともに方法論を身につけることをめざす。



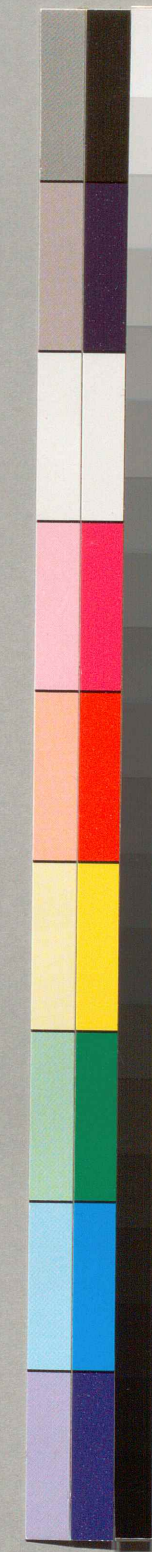
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生涯臨床学特論演習 (98J0034) 伊藤美奈子	I・II 通 4単位	学校現場やさまざまな臨床現場での問題、ならびに人間の発達において見られる諸テーマを多角的にとらえるために、理論と研究法について学ぶ。さらに、実践場面への応用についても検討し、理論と実践に根付いた研究を進める方策を身につけることをめざす。
社会集団論 (98J0035) 平岡公一	I・II 通 4単位	人々の社会的結合としての「組織」から「ネットワーク」へ、組織型運動からネットワーク型運動への移行を把握しつつ、ネットワークの原理と類型、その背後にある社会学的諸理論を検討し、さらに学校、家族、ジェンダー、地域社会(医療・福祉・消費・趣味・学習)、産業と労働、政治行動という個別領域への応用の可能性を考える。
社会集団論演習 (98J0036) 天野正子	I・II 通 4単位	学生各自が独創的な問題意識を深め、確かな方法論を身につけていくために、「ネットワーク」についての内外の重要な文献の講読とレポートを実施しつつ、修士論文の執筆にむけての個別的指導を行う。
社会意識論 (98J0037) 坂本佳鶴恵	I・II 通 4単位	メディア・対面的コミュニケーションなど、さまざまなレベルのコミュニケーションと、そこにおいて共有されたり形成される意識を分析する理論と方法を、現象学的社会学・象徴的相互行為論・コミュニケーション論・アイデンティティ論などの諸理論をふまえながら論ずる。
社会意識論演習 (98J0038) 坂本佳鶴恵	I・II 通 4単位	社会意識、メディア、文化、コミュニケーション、家族意識などの領域のなかから、学生各自の問題関心をもとに最新の理論的文献をとりあげ、各自の研究テーマに役立つ視点からレポートをさせる。本演習では、各分野の最新の理論と方法を理解し、検討することを重視する。とりわけ、社会学のさまざまな領域の基礎となる、意識とコミュニケーションをめぐる最新の理論動向を検討することで、修士論文にむけての独創的な視点と理論的な構想力をつけさせることがねらいである。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
青少年指導文化論 (98J0039) 酒井朗	I・II 通 4単位	児童・生徒指導、スクール・カウンセリング等の実践(臨床)場面では、対象である児童・生徒理解が不可欠である。いじめ、不登校、非行をはじめとする青少年の諸逸脱行動の多くが当該青少年の個別的・個人的要因によっている以上、その指導プログラムもまた、社会的・文化的理解を基礎として開発されなければならない。このために、彼らを個人的かつパーソナリティのレベルで理解するだけでなく、彼らの行動や価値を方向づけるところの青少年文化の特性や、その形成のダイナミクスを解明する。
メンタルヘルス論演習 (98J0042) 春日喬	I・II 通 4単位	心身症に見られるように、心と体は不可分で病理の表われ方も心と身体の二分法では理解できない。心理発生的な病理が身体に及ぶことの臨床的意味を理解し、この病理がコミュニケーションの病理、人間関係の病理に関係することを事例によって学び、援助の実践的技法を習得する。
心理臨床論 (98J0043) 春日喬	I・II 前 2単位	人の生体というシステムが、どのように機能しているかというテーマを根底に据えて、認知と情動の発達と障害、精神病理と治療モデル、心身の健康の問題の基本について理解する。心は脳の機能プロセスであるので、脳の機能についての知識は、心の理解について不可欠となる。生体システムと環境システムの相互作用における不調和によって生ずる問題が考察の対象となる。
心理臨床論演習 (98J0044) 春日喬	I・II 後 2単位	環境への不適応状態、心的ストレスに対する対処の方法、援助の技法と実践について学ぶ。心理療法およびカウンセリングの技法、心理診断、アセスメントの技法を習得する。健康心理学的視点に立って、生涯発達と健康の維持、心的病態の予防についての知識を身につけ、社会的援助のあり方を考える。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
障害臨床学特論 (98J0045) 山本政人	I 通 4単位	障害児・者の発達を発達心理学的視点から捉え、治療、教育、保育などの臨床的アプローチについて検討する。特に認知面と言語面の発達の障害に関して、障害の診断・評価、発達の援助・促進のために必要かつ有効なアプローチの可能性を探求する。また、障害児・者のみならず健常者にも共通する発達上のさまざまな障害とその援助について検討する。
障害臨床学特論演習 (98J0046) 山本政人	II 前 2単位	障害児・者の発達を発達心理学に捉え、その発達を支援するための臨床的アプローチについて検討する。障害の診断・評価のあり方について発達心理学的観点から検討し、障害児・者の発達援助に寄与しうる診断・評価の可能性を探る。さらに発達支援のためのさまざまなアプローチの検討を行い、その理論や技法の習得を目指す。
発達社会科学論 (98J0047) 内藤俊史	I・II 前 2単位	人間の発達の諸側面について、生涯発達と社会・文化的要因との関連を検討する。発達に関する環境要因として、ミクロな要因とマクロな要因を広く取りあげる。文献の講読と討議を中心とするが、受講者の研究分野も合わせてとりあげる。文献の講読と討議を中心とする。文献は、上記のテーマに関する発達心理学、社会学、文化人類学等の領域のものをとりあげる。

## 発達社会科学専攻

(生活・開発科学系)



発達社会科学専攻（生活・開発科学系）

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
家庭科教育学特論 (98J1002) 牧野 カツコ	I・II 前 2単位	現代社会における家庭科教育の意義、目標、教育内容・方法などについて詳細に検討する。特にアメリカをはじめ諸外国の家庭生活教育のカリキュラムを比較検討することにより、今後の日本の家庭科教育のあり方を考察する。
家族関係学演習 (98J1003) 牧野 カツコ	I・II 後 2単位	変動する社会における家族の形態、機能、勢力構造、役割関係などについて内外の文献を用いて検討する。特に、離婚や夫婦関係、親子関係などの文献研究を通して現代社会における家族問題の諸相とその原因をさぐり問題解決についても考察する。
消費者問題演習 (98J1005) 大塚 伝也	I・II 後 2単位	消費者主権が説かれる今日、さまざまな場面において消費者問題が注目されている。内外の文献の検討を通して、消費者問題の歴史的な変遷、各国における消費者保護に関する法令及び消費者運動の実態を把握する。さらに現代社会における消費者問題の発生原因をさぐる。
長寿社会論 (98J1006) 袖井 孝子	I・II 前 2単位	人口の高齢化および個人の加齢がもたらす諸問題の理論的・実証的解明を目的とする。とくに家族や女性と社会保障・社会福祉の関連に焦点をあて、内外の文献を読む。また、それらに関する政府の対応についても検討を加える。
長寿社会論演習 (98J1007) 袖井 孝子	I・II 後 2単位	少子高齢社会においては、増大する高齢者人口を相対的に少ない生産年齢人口でどのように支えるかが大きな課題である。年金・医療・保健・介護などに関する各国の政策を比較検討し、21世紀において求められる世代間の公平をいかに確保するかを考える。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生活法社会論演習 (98J1009) 小谷真男	I・II 前 2単位	住民参加による成熟した市民社会に期待される法の在り方、性格、機能などを内外の文献の検討を通して明らかにする。さらに裁判事例や相談事例の検討を行うことによって、現行法の理念とその運用上の限界などを明らかにし、その改善策を考える。この演習においては、市民社会における法の研究者のみではなく、主体的市民として行動する人材の育成をも狙いとしている。
生活政治論 (98J1010) 杉田孝夫	I・II 前 2単位	Jennifer Ring, Modern Political Theory and Contemporary Feminism (1991)を手掛かりにして、近代政治理論におけるジェンダー規範を検証するとともに、批判理論としてのフェミニズムの理論的基礎を検討する。
生活政治論演習 (98J1011) 杉田孝夫	I・II 後 2単位	N. J. Hirschmann & Christine Distefano, Revisioning the Political (1996)を材料にして、近代政治思想における「政治的なもの」を再検討する。 ◎生活政治論
生活経済論 (98J1012) 御船美智子	I・II 前 2単位	市場中心、効率・成長一辺倒の貨幣経済システムによって生じた地球環境問題や南北格差、生活文化の疲弊などの問題に対し、生活者視点の経済論を検討する。 Paul Ekins & Manfred Max-Neef 編 Real-Life Economics : Understanding Wealth Creation (Routledge) 他。
生活経済論演習 (98J1013) 御船美智子	I・II 後 2単位	生活経済学に関する最近の論文・文献を講読する。生活経済に関する研究動向を知り、諸論文の位置づけ、研究史の上での貢献、問題点と課題を検討する。その中で生活経済学の方法論も明らかにしていく。
生活政策学特論 (98J1014) 袖井孝子	I・II 後 2単位	生活政策学は社会学、経済学、法学、政治学と学問分野が多岐にわたるため、学際的に相互関係のコミュニケーションをはかり効果的な総合化をはかり、生活政策学のアプローチについて議論する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生活情報論 (98J1015) 林廓子	I・II 前 2単位	氾濫する情報の中から必要十分な情報を選択し、これを分析し活用する能力と技術が求められる。ここでは、研究方法としての調査法の基本理論に関する講義と実習を通じて、生活及び研究に関わる情報の収集・分析の知識及び技術を習得する。テキストは講義で配布する。 ◎統計学・社会統計学等
自然環境論演習 (98J1017) 田宮兵衛	I・II 後 2単位	自然環境の把握に関するこれまでの研究・著作のレビューを行う。それらを参考にして地域規模の人間-環境の把握に必要な自然科学的事実に関する観測計画の立案・観測の予備的实施、あるいは既存観測データを用いた解析を実際に行う。
環境認識論 (98J1018) 杉谷隆	I・II 前 2単位	地学的な空間・時間尺度の地形発達から、短期的・人為的な環境変化までを研究対象として、自然環境の総合的な認識方法を確立する。この視点に立ち、環境保全運動や地域振興についても実態調査を行い、現代人の自然環境への関わり方、環境認識を明らかにする。
環境文化論演習 (98J1021) 内田忠賢	I・II 前 2単位	一定の文化的特性をもつ地域を特定し、この地域に関わる歴史・社会構造を人文科学諸分野の貢献、実地調査の結果を用いて複眼的に明らかにする。さらには、この成果に基づき歴史的景観の評価・保存や環境整備に関する政策科学的な提言を試みる。
地域経済論 (98J1022) 内藤博夫	I・II 前 2単位	戦後の日本経済の動きの中で、国内各地域はそれぞれの地域的条件のもとで変貌をとげてきた。その具体的あらわれを追跡し、日本の経済地理の一端を明らかにする。とくに工業化・都市化は地域経済をゆり動かした要因なので、これらに着目していく。
地理情報論演習 (98J1025) 水野勲	I・II 後 2単位	地域開発ないしは環境問題解決の具体的課題を設定し、これに関わる具体的な情報を実際に地理情報システムとして構築し、多変量解析などの手法により地域的特性を把握した上で、開発計画の策定ないしは問題解決のための提言策定を行う。

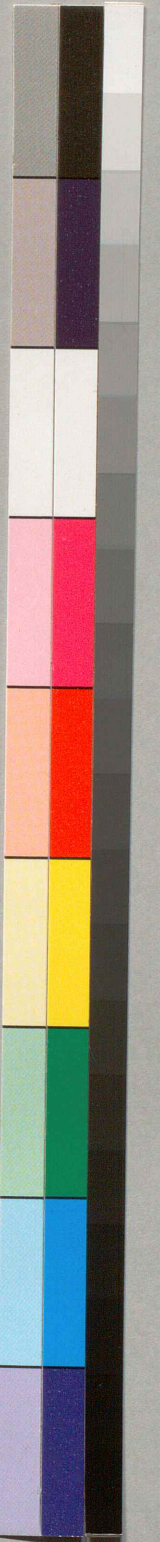
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
ジェンダー関係論 (98J1026) 館 かおる	I・II 前 2単位	ジェンダー概念の基礎的理解、社会システムにおけるジェンダーの構造分析、ジェンダー規範とその作用形態のメカニズムなどを明らかにするために、各自が注目したテーマを研究課題として相互検討し、分析を深める。
ジェンダー関係論演習 (98J1027) 館 かおる	I・II 後 2単位	ジェンダー概念の考察をテーマにした英語及び日本語文献の講読を行う。ジェンダー概念成立前史の系譜を辿り、1960年代後半からの女性学研究のインパクトを契機に成立したジェンダー概念について、レビュー論文を参照しながら、現在までの展開を明示する重要文献を講読しながら考察する。
ジェンダー文化論 (98J1028) 波 平 恵美子	I・II 前 2単位	人間存在の多様性を現出する文化現象に関しての基礎的理論と先端的研究領域について目配りしながら、文化構造をジェンダーの視点から実証的に解析する。そのためフィールドワーク手法の指導も行う。実践的に国際協力活動を行う人材及び当該分野の研究者の育成上、基礎的科目である。
ジェンダー文化論演習 (98J1029) 波 平 恵美子	I・II 後 2単位	人間存在の多様性を表す文化構造について基礎的理論と最近の先端論文について精力的に解説する。次いでフィールドワークの手法について学び実地に調査をするときの問題点などを検討する。最後に論文作成にいたる技術や訓練を身につける。
女性政策論 (98J1030) 熊 谷 圭 知	I・II 前期 2単位	これまでの労働政策、家族政策、社会保障政策等と各分野において個別になされてきた社会政策研究をジェンダーの視点から「女性政策」という枠組みで検討する。また、女性にかかわる政策の構造関連を明らかにし、その問題点を論ずる。こうした授業を通じて、「女性政策」研究者の養成と同時に政策担当者の質的向上に寄与するものとなろう。前半では主に発展途上国の女性政策について、後半では日本女性政策について論じる予定である。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
開発地域文化論演習 (98J1032) 熊 谷 圭 知	I・II 後 2単位	第三世界の開発とそれに伴う社会的・文化的影響について「地域」ごとにフィールド調査する方法を学ぶ。実際に社会調査を行うことを前提に、多くの国の開発の過程の多様性を理解する目的で、先行研究の文献収集に力をいれる。現行の地域開発論及びその進行過程の問題点について解明すべく議論に重点をおく。また2年次生の受講生については、修士論文の中間報告を適宜実施してもらう予定である。
開発経済学 (98J1034) 篠 塚 英 子	I・II 後 2単位	開発にかかわる経済的諸問題を、経済学理論に加え、ジェンダーの視点を含めて、分析・検討する。世帯・地域といったローカルなスケールの経済、国民経済、世界経済との相互関連を具体的な地域の事例をふまえながら実証的に把握する。
開発政策論 (98J1036) 栗 原 尚 子	I・II 前 2単位	開発途上国・先進国における地域政策や都市政策について、具体的地域を取り上げながら、開発に関わる意思決定の過程とその評価をめぐる問題を、地理学的視点から論ずる。
開発政策論演習 (98J1037) 篠 塚 英 子	I・II 後 2単位	開発にかかわる経済的な諸問題を分析する。手法について検討する。さらに論文作成のトレーニングを行なう。
比較ジェンダー開発論 (98J1038) 原 ひろ子	I・II 後 2単位	諸社会における開発過程には、社会経済開発と並んで、近年人間開発という側面も含まれるようになってきている。しかも、開発途上国のみならず開発が存在するのではなく、いわゆる先進工業国も比較研究の対象とされるようになってきた。本科目では、通時的同時的に、開発過程をジェンダー分析の手法を用いて比較検討する。このことによって21世紀の地球社会における新しい「公正」の原則や日本の果たすべき役割についても考察する。

科目名 (科目番号)	履修年次 学期	講義内容
教官名	単位数	
比較ジェンダー開発論演習 (98J1039) 原 ひろ子	I・II 前 2単位	開発過程についてジェンダー分析の手法を用いることの意味とその方法についてとりあげる。次いで女性のエンパワーメントの指標に関する諸文献を読み、さらに参加者の実証的研究テーマについてそれぞれ発表し、それに基づく討論を重視する。
開発・ジェンダー論特論 (98J1040) 篠塚英子	I・II 前 2単位	開発・ジェンダー論に関する学際的研究の取り組み方について解説し、各分野の境界領域についての認識を深めることを目的とする。
国際社会ジェンダー論 (98J1041) 伊藤るり	I・II 後 2単位	近代主権国家におけるナショナリズムと近代市民権の諸問題を、ジェンダーの視点から検討する。近代主権国家の規模モデルを生み出したヨーロッパのみならず、植民地支配の経験をもつ諸地域の事例をも視野に入れつつ、関連文献の精読を進めていきたい。

## ライフサイエンス専攻

(生活科学系)



ライフサイエンス専攻（生活科学系）

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
嗜好成分化学特論 (98K0001) 小林 彰夫	I・II 前 2単位	天然嗜好成分の生合成機構と、それらの化学的変換に関する先端的な研究成果について論じる。
食嗜好評価学特論 (98K0003) 島田 淳子	I・II 後 2単位	食物のテクスチャーや匂いに対する嗜好は食習慣の影響を大きく受ける。一方、味の受容については、生物学的な要素が強い。このような食嗜好の形成に関与する基礎を修得する。次に嗜好性と文化、嗜好性と食物の化学的・物理的・組織学的物質との関連について食嗜好の生理学的評価法、精神物理学的評価法、客観的評価法に関して論ずる。
調理科学特論演習 (98K0006) 畑江 敬子	I・II 前 2単位	調理操作によって食品材料が人間の食べ物になる過程において食品に起こる物理的、化学的变化に関する国内外の文献を講読する。特に食品の主要成分別にそれらの変化と制御に関する討論を行う。また、調理操作のうち加熱操作については熱源の影響について討議する。さらに食物の識別と嗜好に関する官能検査の実施例を文献より検索し、実習も行う。
食品保存科学演習 (98K0008) 本間 清一	I・II 前 2単位	食品の保存方法と保存中におこる成分変化や食品の性状変化を調べる研究・実験手法を学会誌報文の原著を用いて討論する。さらに、技術・手法の変遷を総説をもちいて解説、討論する。
食資源学特論 (98K0009) 村田 容常	I・II 前 2単位	農産物はヒトが摂取するまでに様々な変化を受ける。農産物が如何に変化をするかを化学的、生化学（酵素学）的に追求し、その制御法を考え食品として利用される最新の研究を論ずる。また、生物活性物質としてとらえた食品成分の有効利用についても考察する。
食品機能化学特論 (98K0012) 久保田 紀久枝	I・II 前 2単位	食品起源の重要な生体調節機能性因子が種々明らかとなっている。有効因子の構造解析、食品加工過程での有効因子の顕在的あるいは潜在的变化、生体に与える作用機構について最先端の研究を系統化し論ずる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
資源微生物学特論 (98K0013) 富永典子	I・II 前 2単位	地球上の生物は微生物なしでは生きてゆけない。微生物の自然界で果たす役割について基礎的に追求し、また動植物の培養細胞との類似点、相違点についても述べる。さらに微生物の能力を食品分野だけでなく一般の生活において応用した例、及びその可能性についても論ずる。
代謝制御学特論 (98K0017) 藤原葉子	I・II 後 2単位	老化や生活環境の変化に伴う生体の適応性において、栄養素の調節機能、あるいは微量栄養素による代謝機能の制御の可能性をバイオサイエンスなどの手法で原理的に追求する。さらに、適応制御について食品を摂取した生体の立場から論ずる。
生体防御学特論 (98K0018) 五十嵐脩	I・II 前 2単位	生体は外部からの刺激やストレスに対して体をまもる機構を備えている。人におけるこのような防御機構、特に生体内で発生する活性酸素やフリーラジカルに対する防御機構である抗酸化酵素、抗酸化ビタミンなどの作用機構を論ずる。
生体機能論 (98K0020) 大橋昌子	I・II 後 2単位	人は加齢とともに身体的機能の低下を生じる。本論では特に機能の中核である脳神経と感覚機能との関わりについて、最近の問題や新たな生理生化学的知見を中心に究明する。
生化学特論 (98K0021) 大橋昌子	I・II 後 2単位	生体物質の基本的な構造と機能、および物質の変化とそれに起因する種々の現象について、動物、特に人体を中心に論じる。
食品生化学特論 (98K0022) 倉田忠男	I・II 後 2単位	食品に含まれている栄養素を中心とする各種の化学成分は摂取・消化・吸収・代謝プロセス等に何らかの形で関与し食品・栄養成分として機能する。これら各種食品・栄養成分の有する生化学的特徴・挙動等について論ずる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
臨床栄養学特論 (98K0024) 金子佳代子	I・II 集中(9月) 2単位	疾病条件下における栄養現象の特性を明らかにし、疾病に対応した食生活や栄養素の補給の方策を論ずる。また、成人病やアレルギーなど食生活と関わりの深い疾病の病態と栄養について、栄養(食事)療法を含めた予防医学的見地から論ずる。
衣生活環境学特論 (98K0025) 長谷部ヤエ	I・II 前 2単位	着衣の形態や素材の物性の違いが、生理的測定値と熱的快適性にどのように影響するか、また、それらが人体から環境への熱・水分移動にどのように関係するかを考察する。また、熱的快適性を生理的な測定値により客観的に評価するための方法について述べる。
生活空間設計論 (98K0028) 田中辰明	I・II 前 2単位	生活空間を計画・設計することは、上手に住まうという人間生活にとって基礎的な重要問題である。 ①住居の果たす役割、住居の取得とそれに伴う資格格差の問題 ②敷地計画、平面計画、設備計画などの全体計画 ③住まい易さに関する諸問題として (a)省エネルギー問題 (b)住空間の高気密化、高断熱化に伴う微生物汚染、化学物質汚染問題 (c)生活に密着した給排水・衛生設備、暖冷房・空調設備、太陽熱利用設備、などについて生活者の立場に立った設計論を展開する。
人間生活物理学特論 (98K0029) 會川義寛	I・II 前 2単位	生活環境の認識とその制御、物理刺激と人体の応答、人体組織の物性などの、人間が生活していく上で生ずる各種の現象や問題を物理的観点より取り扱う。
人間工学特論 (98K0031) 高井信治	I・II 前 2単位	人間の歩行を中心とした行動や姿勢は、加齢とともに自由度を失い、容易に事故につながる。したがって安全で快適な生活空間の確保は、衣服・寝具、設備・住居を設計する上で重要な課題であり、その実現のため、人間の長期間での形態と機能の変化をとりあげ考究する。



科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
人間生活工学演習 (98K0032) 長谷部 ヤ 工 會 川 義 寛 田 中 辰 明	I・II 後 2単位	人間が生活していく際に生ずる様々な問題を、工学の観点から取り扱う方法を学ぶための演習を行なう。すなわち、被服生理、生活空間設計、生活物理、人間工学などに関して具体的に演習する。
生活高分子材料学特論 (98K0034) 小 川 昭二郎	I・II 後 2単位	我々の生活の中で高分子材料は益々増え続けている。この10年間でその性能は格段に向上しており、また、分離膜等の機能性高分子材料も生活の中に取り入れられている。最近の高性能、高機能高分子材料の動向を論ずると共に、生活材料としての問題点を探る。
生活材料物性特論 (98K0035) 仲 西 正	I・II 後 2単位	生活において広く用いられる、高分子材料、金属材料、無機材料などに関して、その力学的、熱的、電気的な物性の特徴をとらえると同時にこれらの構造との関係をみていく。また、生活材料が使用される状況において重要な、生活材料の物性と水分に関する諸問題を考察する。
応用界面科学特論 (98K0038) 駒 城 素 子	I・II 後 2単位	生活の様々な面で生ずる現象のもとになっている界面の科学について、基礎的問題をとりあげ、その評価、解析法とともに、汚れの吸付着と脱落の機構の解析や、繊維加工への応用に展開する。
環境心理学特論 (98K0040) 乾 正 雄	I・II 後 2単位	居住空間の環境条件が、人間の心理にどのような影響を与えるか観察する。採光、通風、プライバシー、見晴らしなどの諸条件について人間の感じる開放感との関係を実証的に論ずる。
環境生活工学演習 (98K0041) 小 川 昭二郎 駒 城 素 子 田 辺 新 一 仲 西 正	I・II 前 2単位	人間の生活における最も身近な環境である生活環境に関する演習を行う。すなわち、生活機能材料の設計とその特性評価、生活化学材料と環境、生活における界面の役割とその特徴、生活環境空間の制御と評価などの演習を行う。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生理行動学特論 (98K0042) 富 田 守	I・II 前 2単位	生活行動の神経生理学的機構に関する論文、著書について内容を検討し、討議をおこなう。
比較行動学特論 (98K0043) 柴 坂 寿 子	I・II 後 2単位	比較行動学は人間を含めた動物の行動を綿密に観察し比較することにより、行動の機能、メカニズム、個体発生、進化を解明してきた。人間の対人行動、対面コミュニケーション、小集団内の社会構造等、人間行動に関する比較行動学での知見を概説するとともに、人間行動の観察研究方法についても検討する。
人類進化学特論 (98K0044) 松 浦 秀 治	I・II 後・集中 2単位	ヒトという生物種の進化の歴史、特に地球上における人類の誕生や現代人の起源を解明する上で欠くことのできない領域に「年代学」がある。本特論では、人類進化学が扱う時代に適用される理化学的年代測定・判定法について、それぞれの手法が抱える理論的・技術的課題を知ることによって、人類の起源と進化に関する様々な仮説の年代学の問題点を考察する。
健康医学特論 (98K0045) 永 川 祐 三	I・II 前 2単位	人類生存の基本条件である健康を人体科学および保健管理学の領域概念を踏まえ、衣食住を中心として、見直し、自己の障害設計の中に健康を組み込み自己実現可能な状況を生み出す為の教育・研究を行う。
生体制御学特論 (98K0046) 鈴 木 恵 美 子	I・II 後 2単位	生命を維持するうえで生体機能の恒常性は非常に重要で、生体は外部の環境変化に適応して体内の恒常性を維持するための調節機構を備えている。この生体内調節機構の概要について微量生体成分との関連も含めて論じる。
身体構造学特論 (98K0047) 溝 口 優 司	I・II 前・集中 2単位	人間の身体機構の解明には、身体の構造的側面の理解が不可欠であるが、これを解剖学的に、また、バイオメカニクス的に追求する。そして進化の積重ねの面から、また、生活への適用の面から、身体を持つ構造の意味を解明していく。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生物人間科学演習 (98K0048) 柴坂寿子 鈴木恵美子 富田守 永川祐三 松浦秀治	I・II 前 2単位	生理行動学、比較行動学、人類進化学、健康医学、生 体制御学等、生物人間科学の諸分野における新着の論文 を読み、その内容を評価・検討するとともに、各分野の 研究の最近の方向について考察する。また、各分野を通 じた共通問題について討議を行い、生物人間科学の統合 的把握をめざす。

# ライフサイエンス専攻

(生命科学系)

ライフサイエンス専攻（生命科学系）

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
糖鎖分子生物学 (98K1001) 松本勲武	I 前 2単位	生命体において、糖鎖分子はエネルギー源あるいは構造支持体構築分子として機能するばかりでなく、多細胞生物における細胞間相互作用など種々の生物学的機能に関与する。このような機能に関与する、糖タンパク質、グリコサミノグリカン、糖脂質などの複合糖質上に存在する多様な糖鎖について、さらにはこれらの糖鎖を認識する糖結合性タンパク質などの生体高分子について、構造と性質、両者の相互作用等を解説する。
生物化学特論 (98K1002) 松本勲武	II 後 2単位	生命現象を理解するための生化学的研究手法には、生物を構成している分子のレベルで詳しく調べるやり方と、生物をできるだけ生きている状態に近い状態で調べるやり方がある。研究手法の進歩と研究の発展を対比させながら、歴史的に重要な研究成果をはじめとして、近年急激に発展した最新分野の成果に至るまで、生物化学の研究成果を系統的に詳しく解説する。
生物化学特論演習 (98K1003) 松本勲武	I 後 2単位	生物化学における研究の成果は研究方法の基盤があつてはじめて達成できたと考えることもできる。生物化学関係の国際的な専門雑誌から各人が興味のある研究論文を選び、研究の目的は何か、その目的を達成するためにどのような研究計画をたて、どのような研究手法を用いたか、さらによい方法はないか、考察は妥当かなど、特に批判的な視点から分析、評価し、その結果を他の人に紹介する演習を行う。
分子生物化学特論 (98K1004) 小川温子	I 前 2単位	遺伝子からタンパク質までの基本的な情報の流れに対し、翻訳後の修飾は分子に多様性と様々な調節機能を与える。これによって高度な生物機能が達成されることを具体例をあげて解説する。
糖質科学 (98K1005) 小川温子	II 前 2単位	糖質は、核酸、タンパク質に次いで、生命の第3の鎖と言われる。がん細胞に始まる糖質の機能と構造研究の歴史を概説し、構造との相関、糖質研究手法と糖質工学の発展を解説する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
糖質科学演習 (98K1006) 小川温子	I 後 2単位	複合糖質の単離、構造、相互作用、分布、機能およびこれらの解析方法に関する最近の重要な学術論文を紹介する。関連分野の総説講読も含む。また、あるテーマにそった研究計画 (Research Proposal) を作成し、相互に批評する。
植物分子生物学 (98K1007) 芦原坦	I・II 後 2単位	最近、植物の様々な生理現象が生化学レベル、遺伝子レベルで明らかにされつつある。ここでは、これらの新しい学問を理解するのに不可欠な生化学や分子生物学の基礎と植物に特有な研究について概説する。
代謝生化学特論 (98K1008) 芦原坦	I・II 後・集中 2単位	代謝の調節機構について概説し、さらに、各論としてエネルギー代謝と窒素代謝を取り上げ、最新の代謝制御理論とその問題点について述べる。
代謝生化学特論演習 (98K1009) 芦原坦	I・II 前 2単位	高等植物の代謝に関する最新の論文を読んで知見を広めるとともに、論文の書き方、発表の仕方などについても指導する。
分子細胞生物学特論 (98K1010) 林正男	I・II 前 2単位	細胞接着分子の細胞に対する作用及び細胞接着分子の遺伝子発現制御機構について概説する。細胞に対する作用は、シグナル伝達系、細胞骨格系及び遺伝子発現への効果を分子レベルで概説する。
細胞生物学特論 (98K1011) 林正男	I・II 後 2単位	発生、損傷治癒、免疫、癌の転移等の高次の生命現象において、細胞接着分子の果たしている役割を細胞接着分子の構造と機能及び細胞-細胞マトリックス、細胞-細胞接着機構の観点から概説していく。
細胞生物学特論演習 (98K1012) 林正男	I・II 後 2単位	細胞生物学領域で問題となっている特定のテーマを選び、その問題点、背景、いままでの動向を調べる。さらに、解決策、各解決策の利点・欠点、今後の展望を考えて、文章としてまとめ、口答で発表する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
細胞情報特論 (98K1013) 室伏きみ子	I・II 集中 2単位	細胞が外部からの情報を受容する仕組み、それが細胞内へと伝達される仕組みについて学び、細胞の活動制御を司る情報伝達系の機構を理解する。さらに、その仕組みを解明するための研究の手法について考察する。
細胞生化学特論 (98K1014) 室伏きみ子	I・II 前 2単位	細胞を構成している物質の構造と機能を理解し、生命現象を分子レベルで解明することを目指した研究における生化学的手法の利用と、研究の道筋 (進め方) を考察する。
細胞生化学特論演習 (98K1015) 室伏きみ子	I・II 後 2単位	細胞生化学に関する最近の重要な論文を講読し、研究方法・考え方に関する討議を行なう。
分子遺伝学特論 (98K1016) 松浦悦子	I・II 集中 2単位	遺伝情報の複製と発現の機構については、原核生物において詳細な研究が進められてきたが、近年になって真核生物についてもその機構が明らかになりつつある。本講義では、主として真核生物におけるこれまでの研究の発展を概観し、最近の研究成果を紹介しながら、最新の知見を踏まえて今後の研究について論ずる。
オルガネラ遺伝学 (98K1017) 松浦悦子	I・II 前 2単位	オルガネラをもつことは真核細胞の特徴のひとつであるが、それらの独自のゲノムの遺伝情報の維持や子孫への伝達は、核ゲノムとは大きく異なる機構によって行われている。このようなオルガネラゲノムの複製と伝達、遺伝子発現の機構、進化、及び老化や遺伝病との関連などについて、幅広く講義する。
オルガネラ遺伝学演習 (98K1018) 松浦悦子	I・II 後 2単位	オルガネラは真核細胞にとってエネルギー供給という基本的な機能を担うにもかかわらず、生物によって多様なゲノム構造と遺伝様式をとることが明らかになってきた。さまざまな生物におけるオルガネラの遺伝に関する最新の研究についての論文や総説を講読し、各自の研究テーマについて広い視野からの議論を行う。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
生物物理学 (98K1019) 林 利彦	I・II 前・集中 2単位	生体高分子特にタンパク質の高次構造、形と特異的相互作用、非共有結合性の相互作用、超構造形成のメカニズム、アロステリック調節機構を物理化学的背景から解説する。
生体膜代謝論 (98K1020) 小林 哲幸	I・II 後・集中 2単位	細胞膜を形成する脂質の構造と機能について概説し、膜脂質の代謝及びその結果として産生される脂質性メディエーターについての最新の知見を紹介する。
分子進化学 (98K1021) 石和 貞男	I・II 集中 2単位	分子レベルと表現型レベルの進化機構論に横たわる大きなギャップをいかに埋めるかを中心テーマとして「分子進化の中立説」とその後の動きについて概説する。具体的には、神経行動系や生体防御系等の高次機能、さらには形態形成に関連したシステムとそれらに関する遺伝子(DNA)の進化様式に注目して、従来の枠組みにとわれない進化遺伝学を展開したい。
集団遺伝学 (98K1022) 石和 貞男	I・II 前 2単位	生物集団に見出される遺伝的多様性の保有機構を中心に概説する。特に、生物集団が、いくつかの部分集団に分割された時、多様性がどのように変動するかを時間軸を追って追求し、種分化の問題や生物資源保護の問題と関連させつつ解説する。履修に際しては、分子遺伝学の基礎概念が要求される。
集団遺伝学演習 (98K1023) 石和 貞男	I・II 後 2単位	生物の遺伝的多様性と進化に関する研究課題を選び、それに関連する基本的文献を輪読して最近の研究成果を理解し、生命体システムの歴史的視点がいかに重要かを学ぶと共に、自分の問題意識を確立させる。随時、外部の研究者による進化学研究のトピックスについて話題提供と討論を行う時間を設け、創造的研究の大切さを学ぶようにする。
細胞運動特論 (98K1025) 馬場 昭次	I・II 前 2単位	繊毛・鞭毛運動、筋収縮、アメーバ運動等の細胞運動の巨視的な側面についての理解を深めつつ、その運動機能と調節機構を細胞及び分子のレベルで論じる。

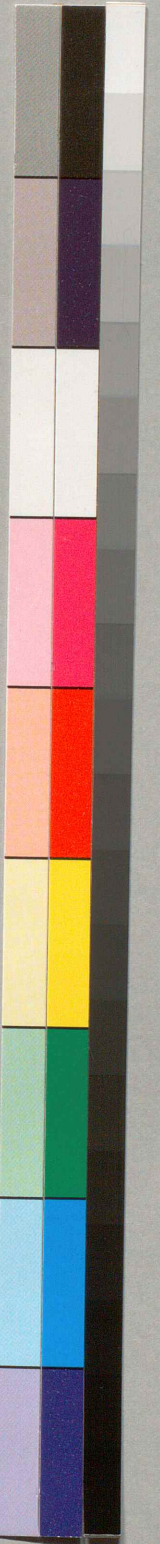
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
細胞運動特論演習 (98K1026) 馬場 昭次	I・II 前 2単位	「細胞運動」に関する文献を調査し、批判的に講読し、論議し、発表する。調査した文献から自己の研究に有効な情報を抽出するとともに、それらを手掛かりとして創造的な発想を得る技術を高める。
植物系統進化学 (98K1027) 山下 貴司	I・II 前 2単位	植物界の分類体系：先人が積み上げてきた系統分類体系を紹介し、その基礎となっている比較形態、比較発生を論ずる。 古植物学：最近急速に進歩している植物化石の研究を紹介し、地質時代における植物の進化がどこまで解明されたかを論ずる。 種分化の機構：自然界における植物集団の生殖、交雑、適応、隔離について、生態学的及び集団遺伝学的研究を紹介する。
植物発生学 (98K1028) 山下 貴司	I・II 後・集中 2単位	生殖、生活史の比較体系：藻類、菌類、蘇苔類、羊歯類、裸子植物、被子植物について、生殖器官の構造と発達及び生活史と世代交代の様式を解説する。 高等植物の個体発生：羊歯類、裸子植物、被子植物について、胚発生、頂端分裂組織の構造と発達、根、茎、葉など器官の形態形成を解説する。
植物発生学演習 (98K1029) 山下 貴司	I・II 後 2単位	植物学文献の国際的な調査法。生殖、生活史、胚発生、器官形成、組織形成に関する基礎的な文献の講読。ドイツ語またはフランス語の初歩が必要。
分子発生学 (98K1030) 千葉 和義	I・II 前・集中 2単位	初期発生は、時間を軸とした遺伝子発現調節の過程である。この制御機構を理解するために、主に母系の転写調節因子の役割を解明する。
発生生物学 (98K1031) 根本 心一	I・II 前・集中 2単位	個体発生は、多細胞高次構造の生命体の形成過程である。細胞増殖と形態形成を理解するために細胞分裂制御や細胞周期の確立機構を解明する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
発生生物学演習 (98K1032) 根本心一	I・II 前・集中 2単位	発生生物学に関するトピックスを幅広く取り扱う。特に卵成熟分裂・卵割の分裂極となる中心体や細胞周期の確立に関する核と細胞質の相互作用に重点を置く。今後の発生生物学の研究を切り拓く創造力の養成に努める。
細胞生理学特論 (98K1034) 最上善広	I・II 後 2単位	細胞を舞台とした、生命活動の調和維持の機構として、細胞内の周期的活動を取り上げ、その成立過程を論ずる。加えて、調和維持能力としての細胞内生理活性の可塑的応答特性を論ずる。
細胞生理学特論演習 (98K1035) 最上善広	I・II 後 2単位	生物時間や生体リズムの発生、及びそれらの維持機構、細胞内の運動特性、さらにそれらに関連する細胞内生理活性の外界応答を取り扱った論文や関連分野の文献の広範なレビューを行う。
形質発現植物生理学 (98K1036) 作田正明	I・II 後 2単位	特定の生長段階あるいは環境条件下で発現する形質の発現の仕組みを高等植物の二次代謝を中心に解説する。
植物環境応答学 (98K1037) 作田正明	I・II 前 2単位	運動性をもたない植物が、環境条件の変化に対応するメカニズムの概説。高温・低温・乾燥・紫外線・周辺生物との相互関係について解説する。
植物環境応答学演習 (98K1038) 作田正明	I・II 後 2単位	植物の環境応答に関連する文献を講読して、最先端の研究成果を理解し、討論する。
形態発現特論 (98K1043) 清本正人	I・II 前・集中 2単位	個体発生における形態の変化と機能の発現、特に発生初期の胚葉の形成とそれに伴う組織の分化、器官形成の仕組みを個体レベルから分子レベルにわたって概説する。
形態発現特論演習 (98K1044) 清本正人	I・II 前・集中 2単位	現在の発生生物学では、いろいろな生物種を材料に、分子、細胞、組織、個体等の各レベルで、さまざまな手法を駆使した研究が進められている。各生物種の特徴、それぞれの方法の目的、有効性と限界、さらには各研究の根底にある発生現象に対する概念について、最新の論文を題材に演習する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
免疫学特論 (98K1046) 高畑尚之	I・II 後・集中 2単位	脊椎動物の免疫系がもつ自己と非自己の識別能力、記憶及び予見性に関する分子的しくみを概術するとともに、その起源と進化に関する最新の知見について講述する。
生命科学演習 (98K1047) 芦原坦 松本勲武 小川温子 林正男 馬場昭次 山下貴司 作田正明 石和貞男 小林哲幸 千葉和義 根本心一 最上善広 清本正人 室伏きみ子 松浦悦子	I・II 後 4単位	年間数回程度、各自の研究の中間報告を行うことで、互いの研究に対する理解を深めるとともに、研究成果のまとめ方と発表の仕方を習得させる。
ライフサイエンス論 (98K1048) 石和貞男	I・II 前 2単位	本専攻は、基礎部門（生命科学系）と応用部門（生活科学系）の2つに別れているが、両者の長所と特徴を統一して、より一層の教育効果を期待するものである。この目的のため2系にわたるライフサイエンスの全体像を把握させ、各自の研究の意義を理解させることにより、修士論文の作成を含む、今後の研究発展に役立たせる。

巻名	巻頭	目次	頁数	著者
第一巻	第一号	植物の光合成と呼吸	1-12	野村 浩
第二巻	第二号	動物の栄養と消化	13-24	山田 隆
第三巻	第三号	植物の成長と生殖	25-36	鈴木 敏
第四巻	第四号	動物の発生と分化	37-48	林 有造
第五巻	第五号	植物の生理と環境	49-60	山本 義
第六巻	第六号	動物の解剖と組織	61-72	佐々木 康
第七巻	第七号	植物の系統と進化	73-84	小島 清
第八巻	第八号	動物の行動と心理	85-96	田中 一
第九巻	第九号	植物の遺伝と変異	97-108	大田 誠
第十巻	第十号	動物の生態と環境	109-120	渡辺 武
第十一巻	第十一号	植物の生理と分子生物学	121-132	佐藤 秀
第十二巻	第十二号	動物の発生と分子生物学	133-144	森田 幸
第十三巻	第十三号	植物の系統と分子生物学	145-156	高橋 敏
第十四巻	第十四号	動物の行動と分子生物学	157-168	松本 隆
第十五巻	第十五号	植物の生理と分子生物学	169-180	木村 尚
第十六巻	第十六号	動物の発生と分子生物学	181-192	斎藤 隆
第十七巻	第十七号	植物の系統と分子生物学	193-204	森下 博
第十八巻	第十八号	動物の行動と分子生物学	205-216	高橋 敏
第十九巻	第十九号	植物の生理と分子生物学	217-228	斎藤 隆
第二十巻	第二十号	動物の発生と分子生物学	229-240	森下 博

## 物質科学専攻



物質科学専攻

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
磁性体特論演習 (98L0002) 伊藤厚子	I・II 後 2単位	磁性に関する教科書・レビュー・原著論文を教材としてゼミ形式で授業を行う。英語で書かれた論文の理解力の向上にも努める。
観測の時空尺度特論 (98L0003) 好村滋洋	I・II 後 2単位	物理現象を特徴づける空間的な尺度と時間的な尺度に関する基本的な考え方を示し、これらの特性時間と特性距離が、複雑系の物性の理解にどのように役立つかを解説する。
固体物理学特論 (98L0005) 富永靖徳	I・II 前・集中 2単位	結晶構造の基本的な性質、固体の電子構造の基本的性質と物性とのかかわり、固体の構造相転移に伴う構造のゆらぎとダイナミクスについて講義する。
固体物理学特論演習 (98L0006) 富永靖徳	I・II 後 2単位	固体の構造相転移を理解するための数学的な基礎を、具体的な演習問題を通して理解させる。また、構造相転移を記述する現象論を構成する方法についても学ぶ。
非平衡物理特論演習 (98L0008) 太田隆夫	I・II 後 2単位	非平衡パターン形成に関する歴史的な、教育上有益な、あるいは最近の重要な論文の講読を行う。一方ではモデルをたてて計算機シミュレーションなどの演習を行う。具体的には、シミュレーションの手法を修得すると同時に、結果を視覚化することによってアニメーションの技術を学び、さらに、複雑な現象の直感的理解を深める。
相転移特論 (98L0009) 好村滋洋	I・II 前 2単位	相転移に関する未解決問題を取り上げ、理解的試みや何が困難なのかについて解説する。特に、粘弾性体における相分離のダイナミクスやレオロジーの実験、および、統計的力学的アプローチなどを述べる。
非線形化学 (98L0010) 藤枝修子	I・II 前 2単位	脳の神経伝達や生物の営みなど自然現象としては古くから知られる非線形、非平衡過程の現象が今注目されている。その背景をなす化学反応は従来の常識を超えた挙動を示し、極めて複雑である。この概念は生体系のモデルにも使われる。



科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
複雑系分析化学演習 (98L0012) 藤枝修子	I 後 2単位	非平衡過程で進行する非線形化学反応として化学振動反応が何種類かある。これらの振動挙動を化学的に追跡するための分析化学的手法を実験とデータ解析の立場から演習により体得する。
溶液化学演習 (98L0014) 益田祐一	I・II 前 2単位	溶液の動的、静的物性を理解する上で重要な理論や実験手段について解説するとともに、典型的ないくつかの系について、実際に得られた実験データの理論的解析の演習を行う。
凝縮系分光 (98L0015) 益田祐一	I・II 前・集中 2単位	凝縮系では種々の分光法により得られたスペクトルは、分子間相互作用の影響を大きく受ける。ここでは、このようなスペクトルにおいて、分子間の静的、動的相互作用に関する情報がどのように反映されているかについて解説する。
散逸系のダイナミクス (98L0017) 香取真理	I・II 前・集中 2単位	注目している系が周囲の環境と相互作用している場合に生じるエネルギー散逸、位相緩和のダイナミクスの系統的な研究。
分子集合体物性論演習 (98L0019) 小林昭子	I・II 後 2単位	分子性結晶の合成・構造・物性研究をどのように進めていくのか、最新の論文を参考として演習を行う。合成テクニック、構造決定法、反応性と物性測定等の方法論について演習する。
計算化学特論 (98L0021) 平野恒夫	I・II 前 2単位	計算化学は、分子力学、分子軌道法(量子化学)、分子動力学などの計算手法によって、分子の構造や反応を理論的に理解し、予測しようとするもので、コンピュータの進歩に支えられて発展してきた新しい学問領域である。計算化学の歴史を概観したのち、分子力学、分子軌道法(量子化学)、分子動力学などの計算化学手法を紹介し、孤立分子から分子集合体に至るまで、これらの手法を用いてその構造、性質、反応をどう理解し、予測してゆくかについて、最近のトピックスを交えて講述する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
計算化学特論演習 (98L0022) 平野恒夫	I・II 後 2単位	分子および分子集合体の構造と反応性を理解し、予測するための計算化学の演習を行う。具体的には、半経験的分子軌道法、非経験的分子軌道法、分子力学法、分子動力学法などの計算化学手法を紹介したのち、これらの計算化学手法のいくつかについて、各自、計算したい分子および分子集合体についての入力データを作成し、ワークステーションなどのコンピューターを用いて実際の計算を行い、その結果を解釈して如何に有用な結論を引き出すかについての演習を行う。
無機化学特論 (98L0023) 福田豊	I・II 前・集中 2単位	無機化学の基本概念、原子・分子の構造や成り立ちを解説し、固体化学、溶液化学について解説する。次にさまざまな無機化合物を取り上げ、それらの構造、結合性、物性、及び反応性について解説する。
錯体構造化学演習 (98L0025) 福田豊	I・II 後 2単位	先に学んだ錯体構造化学を背景に、種々の錯体の合成法、反応性、構造と物性の関連等について、演習講義する。具体的には錯体化学の現在の潮流を解説した後、発表されている研究論文を読み、錯体化学の最先端を理解出来るよう演習を行う。
天然物有機化学 (98L0026) 永野肇	I・II 前 2単位	植物、動物、微生物等により生体内で合成される低分子有機化合物であるテルペン、ステロイド、脂肪酸関連化合物、ポリケチド、ポリフェノール等の単離・構造決定、合成、生合成、生物活性等について解説する。
有機反応化学演習 (98L0028) 永野肇	I・II 前 2単位	新着雑誌の中から有機化学の反応に関係した注目すべき論文を紹介し、その内容について討論することによりこの分野における最新の成果を理解する。
蛋白質結晶学 (98L0029) 今野美智子	I・II 前 2単位	蛋白質が結晶化する過程と重原子が分子の表面に配位する過程について解説する。X線の散乱と干渉を利用する回析の原理および結晶構造解析法の原理と手法について述べ、得られる構造の意味することとその限界について解説する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
構造化学特論演習 (98L0031) 今野美智子	I・II 後 2単位	低分子の構造あるいは蛋白質の構造、リガンドと蛋白質、核酸蛋白質の複合体の構造に関する文献を輪読し、これらの構造に基づき分子間相互作用について討論する。
分子凝集機構論 (98L0032) 堀佳也子	I・II 後 2単位	分子が凝集して、種々の秩序状態をとり、かつ相互に転移する機構を理解するために、分子性結晶および様々の秩序をもつ液晶性物質の事例を紹介し、統計熱力学および相転移理論の概略を講義する。
物性物理化学特論演習 (98L0034) 堀佳也子	I・II 前 2単位	物質の特性を分子レベルで理解するために、最新の研究成果について、論文講読および討論を行う。また、学生自身の研究についても、客観的な検討を行う機会を提供する。
量子化学特論 (98L0035) 鷹野景子	I・II 後 2単位	量子化学は、この四半世紀に急激な発展を遂げた新しい学問である。量子化学においては、分子やその集合体の物性や反応性を、実験的手法でなく量子力学に基づいた理論的手法により解明する。この講義では、量子力学の歴史を概観し、その基本的理論の概要を述べると共に、化学への適用のため派生した発展的な理論について解説する。
理論化学特論 (98L0036) 鷹野景子	I・II 前・集中 2単位	20世紀初頭に端を発する理論化学の発展は、計算機の発展の歴史と密接に関係する。計算機を駆使した計算機シミュレーションにおいては、分子力学法、分子軌道法、モンテカルロ法、分子動力学法などが駆使されている。これらの方法の基礎的な理論およびその適用例を最近のトピックスを含めて解説する。
理論化学特論演習 (98L0037) 鷹野景子	I・II 前 2単位	化学における理論的研究手法である、分子力学法、分子軌道法、モンテカルロ法、分子動力学法などについて、各方法論およびこれらを組み合わせた新しい手法、さらにその応用に関する文献を講読し討論する。

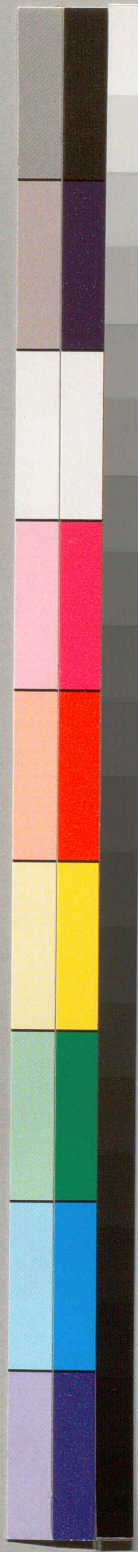
科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
有機機器分析 (98L0039) 山田真二	I・II 前 2単位	NMRの種々の測定法およびそれらを用いる有機分子の構造決定、ならびに状態分析等について解説する。さらに質量分析、クロマトグラフィーなどの最近の進歩についても解説する。
有機機器分析演習 (98L0040) 山田真二	I・II 後 2単位	有機化合物の一次元、二次元NMRの測定法であるNOE、デカップリング、DEPT、COSY、HMBC法などにより得られたスペクトルを解析し、複雑な有機分子の構造決定を行う。
分析化学特論 (98L0042) 森義仁	I 前 2単位	現代の分析化学のトピックスを選択して、講義する。分析化学の領域は広く、環境分析に重要な微量分析、機能性材料物質の開発などに不可欠な状態分析、その他、目的に応じた分析法、あるいは解析法が必要となる。単なる技術情報としてでなく、分析化学の体系を重視して述べる。
分析化学特論演習 (98L0043) 森義仁	I・II 後 2単位	分析化学に関する最近の海外の論文を講読する。専門分野にとらわれず、世界的な分析化学の動向に注目して、討論を交えて進める場合と、やや研究課題に近い分野の原著論文などを、詳細に検討しながら議論する場合の2通りの方法を適宜選択して、演習する。
生物有機化学 (98L0046) 多田全宏	I・II 前・集中 2単位	抗菌、抗ウイルスなどの生物活性を有する天然有機化合物の構造、構造-活性相関ならびにそれらの合成について概説する。また、最新の研究成果の中から具体的な研究手法について解説する。
統計力学特論 (98L0048) 柴田文明	I・II 後・集中 2単位	非平衡統計力学を、基礎から応用にいたるまで系統的に論ずる。理論的な方法論として、確率過程論、線形応答理論、減衰理論、経路積分法を述べ、具体的な例として、幾つかの緩和現象と非平衡量子系としてのレーザー作用を取り上げる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
量子物理学特論演習 (98L0050) 柴田文明	I・II 後 2単位	量子物理学特論の授業内容のうち、特に重要、あるいは興味のあるテーマに関し、論文講読及び討議を行う。ことに、基礎的量子現象、量子光学、量子通信理論などの基本文献を重視する。
場の理論特論 (98L0052) 菅本晶夫	I・II 後 2単位	ゲージ場の理論を最近の発展に従って解説する。ゲージ場の量子化の後、ファインマン掬用いてくりこみを解説し、各種の素粒子反応へ応用する。
場の理論特論演習 (98L0053) 菅本晶夫	I・II 後 2単位	場の理論特論で学んだことを各種の素粒子反応に適用して計算技術を習得させる。主に、電子陽電子散乱断面積の計算および量子色力学・繰り込み群の計算を行う。
極限物性学特論 (98L0054) 浜谷望	I・II 前 2単位	超高压力、超高温、極低温、超強磁場等の極限条件を実現する実験的手法を解説し、そこで観測される新奇な現象の発生メカニズムについて考察する。
放射光科学特論演習 (98L0056) 浜谷望	I・II 後 2単位	放射光科学は理学・工学の広い分野で研究・利用され、日々新たな進歩をみせる学際領域科学である。それらの中からトピックスとなる文献を拾い上げ、セミナー形式で輪講する。
天体物理学特論 (98L0058) 森川雅博	I・II 前 2単位	宇宙でしか存在しない極限状態であるブラックホールの物理・初期宇宙の曲がった時空の量子論を、場の理論や非平衡統計力学の手法で解明していく。
天体物理学特論演習 (98L0059) 森川雅博	I・II 後 2単位	講義で習得した知識や技法を応用して、最新の宇宙の観測データを理論と比較しながら解析したり、初期宇宙の相転移に伴う様々な問題を、物性論・素粒子論と結び付けて解明していく。
非線形物理学特論 (98L0061) 出口哲生	I・II 後・集中 2単位	自然界にみられる様々な非線形現象、例えば相転移、ソリトン、カオスなどを、力学系理論、流体力学、統計力学、そして場の理論を用いて理解する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
非線形物理学特論演習 (98L0062) 出口哲生	I・II 後 2単位	非線形物理学分野に関する原著論文や原書を中心に討議演習を積み重ね、その分野の研究成果を学習し体験する。
物性物理学特論 (98L0064) 小林功佳	I・II 前 2単位	物質の表面に特有な物理現象を取り上げ、その解説を行う。表面構造、表面における電子状態を理論的に考察し、実験との比較検討を行う。さらに、表面への原子・分子の吸着及び脱離動的視点より考察する。
物性物理学特論演習 (98L0065) 小林功佳	I・II 後 2単位	物性物理学特論の講義を踏まえて、それに関連した最近の具体的な問題に取り組むために、本・雑誌等の文献の輪読・討論を行い、研究課題を解決するための能力を養う。
量子重力特論 (98L0066) 細谷暁夫	I・II 後・集中 2単位	一般相対論を量子化する場合種々の困難に遭遇する。それらの問題点を最近の発展を踏まえて講義する。
ゲージ場の理論 (98L0069) 風間洋一	I・II 前・集中 2単位	ゲージ場の理論は、素粒子のみならず物性の各分野にとっても極めて重要である。特にモノポール、インスタントン等の物理を講義する。
Bファクトリーの物理 (98L0071) 大下範幸	I・II 前 2単位	今後5年以内に始まるBファクトリーでは、素粒子の標準模型の種々のパラメーターが精度良く測定される。その時必要となる物理を講義する。
核物性特論 (98L0072) 坂井信彦	I・II 後・集中 2単位	原子核や電子をプローブとして物質の巨視的・微視的性質を探る核物性の基礎と応用について講義する。特に、荷電子のチャンネルリング陽電子消滅、放射核を用いた角度相関について述べる。

科目名	単位数	履修条件	担当教員	科目概要
数学Ⅰ	3		大野 隆	数Ⅰの基礎知識を定式化し、証明の厳密性を養う。微分積分の応用も扱う。
数学Ⅱ	3	数学Ⅰ	大野 隆	ベクトル、複素数、微分積分の応用を扱う。物理への応用も示す。
数学Ⅲ	3	数学Ⅱ	大野 隆	微分積分の応用、確率論、線形代数の基礎を扱う。
数学Ⅳ	3	数学Ⅲ	大野 隆	線形代数の応用、微分方程式、確率論の発展を扱う。
情報科学Ⅰ	3		大野 隆	コンピュータの基礎、プログラミング、データ構造を扱う。
情報科学Ⅱ	3	情報科学Ⅰ	大野 隆	ネットワーク、データベース、セキュリティを扱う。
情報科学Ⅲ	3	情報科学Ⅱ	大野 隆	人工知能、ロボティクス、応用情報技術を扱う。
英語Ⅰ	3		大野 隆	基礎的な英語の文法と読解力を養う。
英語Ⅱ	3	英語Ⅰ	大野 隆	リスニング、スピーキング、リーディングの強化を図る。
英語Ⅲ	3	英語Ⅱ	大野 隆	英会話の応用、論文の読解と執筆を扱う。
英語Ⅳ	3	英語Ⅲ	大野 隆	高度な英語の読解と表現力を養う。

## 数理・情報科学専攻



数理・情報科学専攻

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
計算物理学特論 (98M0002) 佐藤浩史	I・II 後 2単位	自然現象の解明に必要な物理モデル、計算モデルの作成、数値シミュレーション及びその結果の可視化の手法について研究教育する。
計算物理学特論演習 (98M0003) 佐藤浩史	I・II 後 2単位	具体的な物理学における問題を与え、コンピュータを用いて解を求めることにより、物理学の理解を深める。
数値流体力学特論 (98M0005) 河村哲也	I・II 前 2単位	流体力学の諸問題を数値的方法でコンピュータを用いて解析する数値流体力学について、その原理及び応用法に関し、環境科学への適用を念頭におき講述する。
数値流体力学特論演習 (98M0006) 河村哲也	I・II 前 2単位	線形偏微分方程式の近似解法、格子形成法、非圧縮性流れの数値解析法、圧縮性流れの数値解析法の中からトピックスをいくつか選び、実際にプログラムを組んで解析を行うことを目標に演習を行う。
計算機言語特論 (98M0007) 長嶋雲兵	I・II 前 2単位	計算機言語の特徴を明らかにし、実際の翻訳系の構成を説明し、その内部構造、属性文法等の意味記号を含めた文法記号方法を論じる。
データベースシステム特論 (98M0010) 藤代一成	I・II 前 2単位	データベースシステム研究開発の最新トピックスに関して、データモデリング、データベース設計方法論、データベース高度応用を中心として述べる。
情報検索特論 (98M0011) 藤代一成	I・II 前 2単位	データ検索の意義と歴史にふれた後、近年研究開発のさかんな「情報の可視化」にスポットを当て、その技術的背景、理論的バックボーン、最新事例を紹介する。
人間機械系特論 (98M0014) 粕川正充	I・II 後 2単位	人間と情報機械が一つの複合系であるという立場から、両者の界面の重要性を認識させ、そこから生じる問題とその解釈法について解説する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
コンピュータアーキテクチャ特論 (98M0015) 清木 康	I・II 後 2単位	コンピュータアーキテクチャには、手続き型、関数型、論理型、オブジェクト指向型等の代表的な計算パラダイムに基づくものがある。本講義では、これらの計算パラダイムに関する基礎的な事項とアーキテクチャについて概説する。また、最近のマルチメディア・システム、ネットワークシステムの構成方式について解説する。
データベースマシン特論 (98M0018) 市川 哲彦	I・II 前 2単位	高速データベース処理のための理論と技術について解説する。基本的なトランザクション処理と検索処理について解説した後、同時アクセス制御に必要なプロトコルとスループットの関係、問合せ処理高速化のための最適化技術、並列処理技術の適用について論ずる。
計算理論特論 (98M0019) 市川 哲彦	I・II 後 2単位	ソフトウェア構成の基盤となっている計算理論について解説する。Turing機械と関数可能関数について概括した後、記号処理に基づく計算理論として、ラムダ計算、証明論的計算モデル、項書換えモデルの各々について論ずる。
CADシステム特論 (98M0023) 西原 清一	I・II 後 2単位	CADシステムにおけるアルゴリズムについて、図面、形状、自動化に重点をおいて論じる。図面については、2次元図形の自動認識及び3画図から立体データを構成する手法について述べる。形状に関しては3次元形状の表現方法とその理論について触れる。
環境数理特論 (98M0024) 細矢 治夫	I・II 前 2単位	原子・分子から生命体を取りまく自然環境、人間を取りまくあらゆる人文・社会環境に内在する環境情報の実体を情報科学的に把握し、その処理過程につき詳述する。
確率解析特論 (98M0027) 笠原 勇二	I・II 前 2単位	ブラウン運動、ホワイトノイズ等基礎的な知識から始めて、確率積分の概念、確率微分方程式の定義、計算法等について解説する。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
応用数学特論 (98M0031) 竹尾 富貴子	I・II 後 2単位	自然界にさまざまな形で存在するフラクタルについての数学的な研究について講義する。例えば、「単位長さの棒を180度回転して元の位置に戻すのに、必要な最小面積を求める」という有名な「掛谷」問題の解答を、フラクタルの理論を使って証明する。
応用数学特論演習 (98M0032) 竹尾 富貴子	I・II 後 2単位	応用数学特論の演習として、講義に関係のあるフラクタル等の原著論文の輪講や、問題の演習を行う。さらに、関連する図形や次元等を求める計算のためのプログラミングの実地演習も行い、講義の内容の理解を深める。
離散数学特論 (98M0033) 金子 晃	I・II 前 2単位	本講義は、広く離散数学の基礎とその実用的な道具の中から適当な題材を選び、応用にも視点を置いて解説するものであるが、今年には特にウェブレットの解説を行う。基礎理論としてはDaubechiesのTen Lectures on Waveletsを中心に紹介し適宜応用の文献を補う。
情報構造特論 (98M0037) 吉田 裕亮	I・II 後 2単位	情報の中に潜在する有限離散的な構造を確率的に推測する手法においては、確率的なモデルを考えるのは重要である。本講義では抽象確率空間を函数解析的な側面から拡張した作用素のなす代数を考え、その構造解析を部分代数の構造を基に行なう手法を扱う。この場合、部分代数に関する条件付き期待値など函数解析学的な処理が重要となる。このため函数解析の理論も本講義には含まれる。
情報構造特論演習 (98M0038) 吉田 裕亮	I・II 後 2単位	本演習では、作用素代数において、その構造解析を部分代数の構造を基に行なう手法についての演習を行なう。部分代数の増大列に関する条件付き期待値などを函数解析学の理論を用いて具体的に書き下し、これら条件付き期待値に対応する射影作用素の列を調べることにより、有限グラフによる部分代数の不変量を得ることが可能である。この演習を行なうことにより作用素代数理論への理解を深める。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
数理情報学特論 (98M0040) 浅本紀子	I・II 後 2単位	広範囲の事象から抽出された数理情報のふるまいを記述する方程式の解を解析する基礎理論を取り上げ、これをベ計算機を用いた処理を中心として論ずる。
幾何構造特論 (98M0043) 高橋恒郎	I・II 前 2単位	可微分多様体上で定義される複素構造、概複素構造、接触構造、概接触構造等の基本的な幾何構造について、その構造テンソルの解析を通じて幾何学的特質を明らかにする。
微分幾何学特論 (98M0044)	I・II 後 2単位	主バンドル上の線形接続に関する一般理論を述べ、次いでその応用として特にリーマン空間での共形変換、等長埋入、局所対称空間などのテーマを取り上げ、講義する。
微分幾何学特論演習 (98M0045)	I 後 2単位	主バンドル上の線形接続に関する一般理論や、その応用として特にリーマン空間での共形変換、等長埋入、局所対称空間などについて、具体例の計算や関連する論文の講読などを通じて、理解を深める。
調和解析特論 (98M0047) 渡辺ヒサ子	I・II 前 2単位	n次元ユークリッド空間上の実解析でよく使われる、極大関数、特異積分、ハウスドルフ測度、容量等について述べ、ポテンシャル論や境界値問題を解くために応用する。
調和解析特論演習 (98M0048) 渡辺ヒサ子	I・II 後 2単位	極大関数、特異積分、ハウスドルフ測度、容量などに関する基本的な定理の理解を深め応用力をつけるための演習を行う。
解析的整数論特論 (98M0049) 藤原正彦	I・II 前 2単位	楕円関数、モジュラー関数について講述する。6展開、リーマン面そして楕円曲線論との関係についても触れる。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
整数論特論演習 (98M0051) 藤原正彦	I 後 2単位	整数論特論を補うための演習である。代数的整数環の基底、単数群など、具体的な数体について計算する。また、できれば、単数底やイデアル類数などの特殊な体について計算する。一般論だけでなく、具体例の計算により、整数論に親しみ理解を確固たるものにするのが目標である。
漸近解析特論 (98M0052) 真島秀行	I・II 前 2単位	自然nの階乗の近似公式として知られるスターリングの公式や余剰虹のエアリー及びストークスによる解析を始めとして、多くに関数方程式の解の近似的挙動を明らかにする手法として知られる漸近解析について、基本的な部分からいくつかの応用までを論ずる。
関数方程式特論演習 (98M0054) 真島秀行	I 後 2単位	常微分方程式、偏微分方程式、差分方程式、積分方程式などの関数方程式についての基本的な例を扱ったり基本的な定理の応用に関わる演習を行う。
多様体構造特論 (98M0055) 塚田和美	I・II 前 2単位	曲線、曲面の概念を一般化したものとしての部分多様体について、リーマン幾何学の立場から論ずる。超曲面論、全測地的部分多様体論、極小部分多様体論等が主なテーマとなる。
等質空間特論演習 (98M0057) 塚田和美	I 後 2単位	等質空間の幾何学的性質の研究に関し、具体例の計算や関連する論文の講読などを通じて、理解を深める。
無限次元測度特論 (98M0059) 前田ミチエ	I・II 後 2単位	無限次元ベクトル空間上の測度論を、シリンダー測度、可測ノルム、抽象Wiener空間等を中心に解説する。
無限次元測度特論演習 (98M0060) 前田ミチエ	I 後 2単位	無限次元測度特論の内容に沿って具体的な問題をとりあつかう。

科目名 (科目番号) 教官名	履修年次 学期 単位数	講義内容
代数構造特論 (98M0062) 榎本陽子	I・II 後 2単位	様々の代数構造やカテゴリー、コホモロジーについて論じる。多元環特に群環上の加群についてのExt やコホモロジー環、
代数構造特論演習 (98M0063) 榎本陽子	I 後 2単位	様々の代数構造やカテゴリー、コホモロジーについて具体的に計算したり、関連する文献を調べるなどし理解を深める。多元環特に群環上の加群についてのExt やコホモロジー環、rankvarietyなども扱う。
大域幾何学特論 (98M0065) 小野 薫	I・II 集中 2単位	幾何の基本的対象である多様体の大域的構造を論ずる。特に、計量、複素構造、symplectic構造といった付加構造面が入っている場合を考察する。
複素多様体特論 (98M0070) 横川光司	I・II 後 2単位	複素多様体、ケーラー多様体及びその上の層とコホモロジー、因子、直線束又はベクトル・バンドル等の基本的性質や、ホッジ分解、双体定理、消滅定理、埋込定理等について解説する。
代数幾何学特論演習 (98M0072) 横川光司	I・II 後 2単位	代数幾何学に必要な可換環論の基本的な定理に関わる問題や具体的な代数多様体、主として射影平面上の代数曲線を例にとり、非特異性、交点数、代数的不変量、リーマン・ロッホの定理などに関わる計算問題を解く演習を行う。
特別演習 (98M0073) 数理・情報科学専攻教官	I 前 4単位	各研究室で、それぞれ特定の題目について論文、単行本などを読み調べ報告し、教官と議論を行いながら理解を深めるとともに数理・情報科学における研究の方法を修得する。
特別研究 (98M0074) 数理・情報科学専攻教官	II 前・後 12単位	教官の指導の下に、各人のテーマの修士論文の作成を目標とした研究を行う。

## 担当教官名簿



担当教官名簿

学 長 佐藤保  
人間文化研究科長(併)教授 徳丸吉彦

言語文化専攻

教	授	鈴	木	泰
教	授	平	野	由紀子
教	授	市	古	夏生子
教	授	藤	山	和子
教	授	相	原	茂宏子
教	授	石	川	弓子
教	授	中	村	弓昭子
教	授	石	丸	道子
教	授	西	尾	幸久江
教	授	宮	川	静人
教	授	海	老根	紀彦
教	授	三	木	和千鶴
教	授	長	岩	崎田
教	授	古	菅	聡子
助	教	菅	大	塚常樹
助	教	大	宮	尾村直
助	教	中	村	田真弓
助	教	菅	野	健
助	教	牛	江	ゆき子
助	教	竹	村	和子
助	教	内	田	定毅
助	教	松	崎	奈津子
助	教	西	岡	崎
助	教	村	松	賢一
助	教	本	郷	逕子

人文学専攻

教	授	土	屋	賢	二
教	授	羽	入	佐	和子
教	授	高	島	元	洋文
教	授	窪	添	慶	行郎
教	授	山	本	秀	次郎
教	授	大	口	勇	郎
教	授	安	田	次	郎
教	授	小	風	秀	雄文
教	授	秋	山	光	郎
教	授	板	倉	壽	三枝
教	授	小	池	三	節子
教	授	石	黒	節	子
教	授	片	岡	康	子
教	授	遠	藤	秀一	郎
教	授	徳	丸	吉	彦
教	授	林	三	廣	子
助	教	浦	藤	光	謙子
助	教	佐	三	徹	夫
助	教	新	井	由紀	香子
助	教	天	野	知	淑子
助	教	徳	井	佳	子
助	教	吉	村	郁	子
助	教	本	田	惠	子
助	教	永	原	三	子

発達社会科学専攻  
(発達社会科学系)

教 授 上野浩道

教	授	宮小	原川	修剛
教	授	鷹内	野藤	行史
教	授	内無	田藤	俊伸
教	授	黒	田木	子隆
教	授	榆	野岡	生子
教	授	天平	日塚	正公
教	授	春耳	込田	一喬
教	授	駒米	石坂	明武
助	授	石坂	伊坂	彦彰
助	授	酒山	井本	章子
助	授	田	代	恵朗
助	授			人美

(生活開発科学系)

教	授	袖田	井宮	孝子
教	授	内千	藤歳	兵博
教	授	田篠	中塚	壽真
教	授	原牧	野	英ひろ
教	授	館犬	塚田	かおる
助	授	杉御	船谷	伝孝
助	授	小杉	谷	美智
助	授			真隆

助	教	授	内熊	田谷	忠圭	賢知
助	教	授	栗水	原野	尚	子勲

ライフサイエンス専攻  
(生活科学系)

教	授	小島	林田	彰夫
教	授	本五	田間	淳清
教	授	大倉	十嵐	一修
教	授	小駒	大倉	昌子
教	授	田富	川城	忠昭
教	授	永畑	中川	素辰
教	授	長谷	部田	祐敬
助	授	村久	保田	容紀
助	授	富大	永塚	典子
助	授	藤會	原川	葉義
助	授	仲田	西辺	新秀
助	授	松鈴	浦木	秀恵
助	授	柴坂	坂	美子

(生命科学系)

教	授	松本	勲武
教	授	芦原	伏坦
教	授	室松	浦悦
教	授		子

教	授	石馬	和場	貞昭	男次
教	授	山根	下本	昭貴	司一
教	授	芦小	原川	心	坦子
助	授	林最	上林	温正	男広
助	授	小千	葉田	善哲	幸義
講	授	作清	本	和正	明人

物質科学専攻

教	授	伊富	藤永	厚靖	子徳
教	授	太好	田村	靖隆	夫洋
教	授	藤益	枝田	滋修	子一
教	授	平福	野田	裕恒	夫豊
教	授	永柴	野田	文晶	肇明
教	授	菅浜	本谷	美智	夫望
助	授	今堀	野	佳也	子子
助	授	鹿山	田	景真	子二
助	授	森森	川口	義雅	仁博
助	授	出小	林	哲功	生佳

数理・情報科学専攻

教	授	佐藤	浩史
---	---	----	----

教	授	河長	村嶋	哲雲	也兵
教	授	細笠	矢原	治勇	夫二
教	授	竹金	尾子	富貴	子晃
教	授	高渡	橋辺	恒七	郎子
教	授	藤真	原島	正秀	彦行
教	授	塚前	田代	和ミ	美工
助	授	粕吉	川田	一正	成充
助	授	浅榎	本本	裕紀	亮子
助	授	小松	野崎	陽	子薫
助	授	横市	川川	克光	彦司
助	授			哲	彦

(博士後期課程)

助	手	富小	永塩	実さと	香み
助	手	中吉	西川	祐美	子子
助	手	清	瀨	千佳	佳子

ジェンダー研究センター

センター長(併)教授	原	ひろ子
教授	原	ひろ子
教授	館	かおる

生活環境研究センター

センター長(併)教授	倉田	忠男
教授	五十嵐	脩

教授 大橋 昌子  
教授 富永 典子

情報処理センター

センター長(併)教授 細矢 治夫  
教センター長(併)助教授 浅本 紀子

共通機器センター

センター長(併)教授 平野 恒夫

学生部

部長(併)教授 五十嵐 脩

保健管理センター

部長(併)教授 永川 祐三

附属図書館

館長(併)教授 大口 勇次郎

◎ 教官は、学外教官（非常勤講師）  
を除く。

